キャンパス・アジア　構想・拡大・深化　―これまでの成果と今後の展開―

CAMPUS Asia

キャンパス・アジア 構想・拡大・深化

―これまでの成果と今後の展開―

岡山大学
OKAYAMA UNIV.

岡山大学キャンパス・アジア事務局

CAMPUS Asia

キャンパス・アジア
構想・拡大・深化

—これまでの成果と今後の展開—

CONTENTS

Distinctive Initiatives
岡山大学キャンパス・アジア
これまでの成果 ―― 06

第1部
高い理念と熱い想い
東アジア型グローバル教養教育 ―― 10
プログラムの概要 ―― 12
東アジアの共通善を追求
地域中核人材の育成プログラム ―― 14
全ての学生にキャンパスアジアの教育を ―― 16
学びの指針　共通善教科書編纂 ―― 18
共通教科書による経済の講義 ―― 20

第2部
包括的システムの構築
トライアングル連携教育 ―― 22
キャンパス・アジアでめざす
東アジア次世代リーダーへの道 ―― 24
長期留学生の声（派遣） ―― 26
長期留学生の声（受入） ―― 28
短期留学 ―― 30
CA中韓留学ワークショップ ―― 32
実践知をキーワードに地域で学ぶ ―― 40
留学の成果報告と討論 ―― 41
共通善をめぐる講義と討論　サマースクール ―― 42
相互信頼関係が魅力的なプログラムの基礎 ―― 44

第3部
斬新なメソードの開発
マルチリンガル教育と実験教室 ―― 46
多言語セミナー ―― 48
セミナーを中心とした交流 ―― 50
ナノバイオコースの受入 ―― 52
フォトグラフィワークショップ ―― 54
東アジア型グローバル教育のモデル化を目指して ―― 56

第4部
キャンパス・アジア コミュニティ ―― 58
キャンパス・アジアパートナーズ ―― 60
課外での3国交流　シェアハウスは相互理解の拠点 ―― 62

Perspectives
プログラムの継続と深化 ―― 66

資　料 ―― 68
キャンパス・アジアの歌 ―― 70

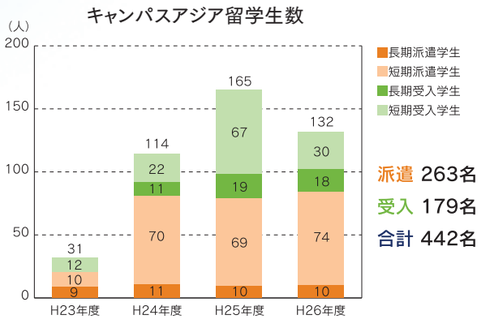
キャンパスアジアスマイル
総勢500人!!

《Distinctive Initiatives》

岡山大学キャンパス・アジア これまでの成果(1)

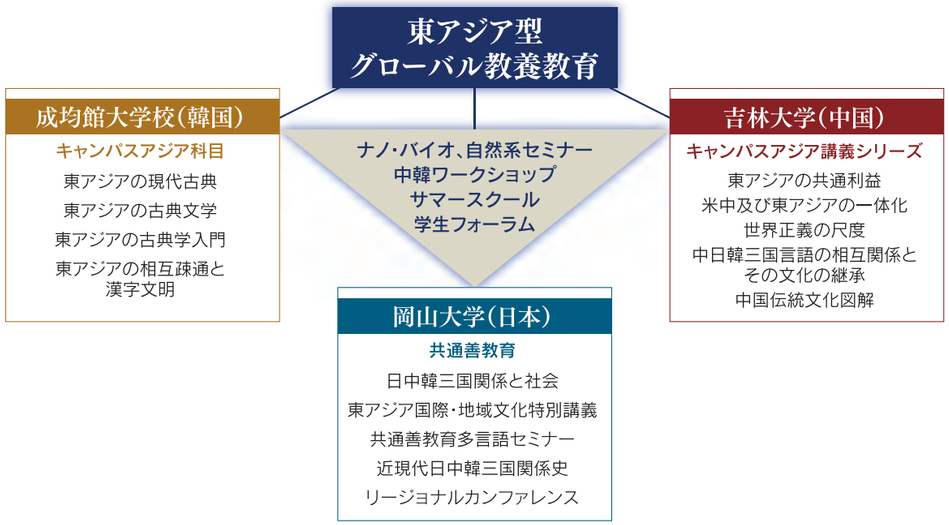
高いモビリティ

このプログラムで、すでに442名の学生が長・短期で日中韓を移動しながら学んでいます（岡山大学における吉林大学・成均館大学との受入・派遣）。中韓の交流（吉林大学・成均館大学間交流）も含めると、500名以上の学生がこのプログラムに参加しています。



オリジナルな東アジア型のグローバル教養教育プログラム

このプログラムでは、東アジアの人材育成にとって必要なカリキュラムを、3国で試行錯誤しながら構成してきました。東アジアのグローバル人材にとって欠かせない教養とは何か、相互理解を促進するための基礎教育とは何か、東アジアのアイデンティティはどのように形成できるのか、などを3校で徹底討論しながら、現在のカリキュラム構成を練り上げました。



オリジナルな教育内容

このプログラムでは、共通善教育をベースとしながら、マルチリンガル教育（共通善教育多言語セミナー、学生フォーラム、ワークショップ）、アクティブ・ラーニング（リージョナル・カンファレンス、まちなかキャンパス、中韓ワークショップ）、生活全般を通じた教育（シェアハウス、キャンパス・アジア学生クラブ）など、様々な実験教室を試み、教育効果の高いモデルを開発しました。

語学教育の高い実績

このプログラムでは、現地語の学習に力を注いでいます。それは、単に現地の語学学校に派遣するだけでなく、多言語共通善教育セミナーやリージョナル・カンファレンス、シェアハウスといった生活全般を通じて、マルチリンガルな人材が育つような方法を開発しながら推進しています。その成果は、右のデータにも表れています。ほとんど現地語ができない学生が、1年後にはほぼ最上級の検定試験に合格して帰国しています。また、最近韓国で行われたキャンパス・アジアのエッセーコンクールでは、38名の入選者中8名がキャンパス・アジア岡大生、またはこのプログラムで岡大に留学した吉林大学と成均館大学の学生でした。

平成25年度派遣学生

派遣先（期間）	学生	派遣前言語レベル	派遣後言語レベル
中国・吉林大学（1年）	A-M	初級	HSK 6級（上級）
中国・吉林大学（1年）	B-F	初級	HSK 6級（上級）
中国・吉林大学（1年）	C-F	初級	HSK 6級（上級）
中国・吉林大学（1年）	D-M	初級	HSK 6級（上級）
中国・吉林大学（1年）	E-F	初級	HSK 6級（上級）
韓国・成均館大学校（1年）	F-F	初級	TOPIK 5級（上級）
韓国・成均館大学校（1年）	G-F	初級	TOPIK 5級（上級）
韓国・成均館大学校（1年）	H-M	未履修	TOPIK 4級（中級）
韓国・成均館大学校（1年）	I-F	初級	TOPIK 5級（上級）
韓国・成均館大学校（1年）	J-F	初級	TOPIK 6級（上級）

平成26年度派遣学生

派遣先（期間）	学生	派遣前言語レベル	派遣後言語レベル
中国・吉林大学（1年）	A-F	初級	HSK 6級（上級）
中国・吉林大学（1年）	B-M	初級	調査中
中国・吉林大学（1年）	C-F	未履修	調査中
中国・吉林大学（1年）	D-F	初級	HSK 6級（上級）
中国・吉林大学（1年）	E-M	未履修	調査中
韓国・成均館大学校（1年）	F-F	初級	TOPIK 5級（上級）
韓国・成均館大学校（1年）	G-F	中級	TOPIK 6級（上級） 語学堂成績優秀賞
韓国・成均館大学校（1年）	H-F	初級	TOPIK 6級（上級）
韓国・成均館大学校（1年）	I-F	初級	TOPIK 5級（上級）
韓国・成均館大学校（1年）	J-F	初級	TOPIK 6級（上級） スピーチ大会最優秀賞

《Distinctive Initiatives》

岡山大学キャンパス・アジア これまでの成果(2)

2014 CAMPUS Asia 事業体験エッセイ公募受賞者　　主催：韓国大学教育協議会

・入選者：38名（うちキャンパス・アジア学生最優秀1名、優秀4名、奨励3名）
・キャンパス・アジア岡大派遣生、および岡大に留学したキャンパス・アジア留学生）

事業団	名　前	所属校	エッセイ題目	区　分
成均館大（文科）	FAN Huijie	吉林大	私を成長させたCAMPUS Asia	最優秀
成均館大（文科）	イム・ジウォン	成均館大	私が見た中国について話したい	優　秀
成均館大（文科）	ナム・ヘイン	成均館大	未生から完生を目指して	優　秀
成均館大（文科）	イ・ジョンミン	成均館大	他者にどのように近づければいいか	優　秀
成均館大（文科）	キム・ヒジン	成均館大	The China of my eye	優　秀
成均館大（文科）	XIE Jiao	成均館大	Campus Asiaを通じてみる「善」	奨　励
成均館大（文科）	大垣　杏花	岡山大	私が体験したCampus Asiaプログラム ※韓国語で執筆	奨　励
成均館大（文科）	パク・チョンヘ	吉林大	キャンパスアジア体験エッセイ公募	奨　励

入学から卒業まで一貫した指導

このプログラムでは、入学後のプログラム参加（リージョナル・カンファレンス、中韓ワークショップ等）を手始めに、短期留学、サマースクール、派遣事前研修、長期留学を経て、帰国後の言語コミュニケーション能力ブラッシュアップ授業、多言語共通善教育セミナーなどで更に力をつけ、社会に羽ばたいていきます。これらのプログラムのサポートプログラムとして、キャンパス・アジア学生のサークル活動、シェアハウスでの活動、卒業後の情報交換の場であるキャンパス・アジア同窓会活動があり、学生が自主的に活動の輪を広げています。

上竹 嘉紀君の場合 *Uetake Yoshinori*

工学部・電気通信系2年生
一貫した教育プログラムに参加

2014年3月　中韓留学 ワークショップ（8日間）に参加

- 休講期間中に行われるプログラムなので、理系学生が参加しやすかった。
- 短期間で中韓両方に行ってみたかった。
- 学生交流・企業訪問・社会見学など内容が充実していて魅力的だった。

2014年8月 中国短期留学（30日間）に参加

- ワークショップをきっかけにもっと中国に行ってみたくなった。
- 理系なので、留年してまで長期留学する意思がなかったが、少しでも長期間で中国にいってみようと思って、短期留学に参加した。
- 中国語をもっと勉強したかった。

2014年5月　まちなかキャンパス（公害と地域住民）に参加

2014年6月　リージョナル カンファレンス（日本の塩業）に参加

- 海外に行ったことで、自分の国について知らないことがたくさんあることに気づいた。このような企画に参加したいと思った。
- 座学だけではなく実践授業に参加したかった。

学生クラブ副会長（2014年9月～現在）に在任

- 自分の経験を生かしてプログラムに役立ちたい。
- 学生同士の活動でネットワークをもっと広げていきたい。

2014年度後期 キャンパスアジア共通科目を履修

- 東アジアに関する知識をもっと身につけたい。
- 勉強した英語・中国語を実際に使ってみたい。
- ディスカッション、プレゼン能力を高めたい。

2014年3月～2015年2月 中国長期留学に参加

- 長い目で自分の将来につながるような体験はキャンパスアジアの長期留学で実現したい。今すごくわくわくしている。

全学部対象のプログラム

人文系、社会科学系の学生が活動の中心ですが、潜在的にこうした活動に参加したい医歯薬系、自然系の学生も多くいます。こうした学生のために、独自のプログラム（ナノ・バイオコース、自然系ワークショップ等）を走られています。科学技術分野の学生・院生、若手研究者の学術交流を通じて、医歯薬系、自然系の学生・院生にも東アジア共通善の深い教養と認識を持ってもらうことは、東アジアの未来にとって極めて重要です。そして、こうしたきめ細かなプログラムを束ねたモデルを構築することによって、着実に成果を上げられることが実証されました。成果の分析は改めて公表します。

第1部

高い理念と熱い想い 東アジア型 グローバル教養教育

次世代中核人材の育成

2011年に、岡山大学は文科省補助事業「世界展開力　キャンパス・アジア」事業に採択されました。これは、日中韓が1校ずつパートナー校を設定し、3校が留学生の相互派遣と相互交流を行うことを通じて次世代の優秀な人材を育成するプログラムです。岡山大学のパートナーは、吉林大学（中国）、成均館大学校（韓国）で、プログラム名は「東アジアの共通善を実現する深い教養に裏打ちされた中核的人材育成プログラム」です。

このプログラムでは、日中韓3校が協力して、アジア共通の価値観形成と次世代の中核人材育成を目指します。同時に、東アジアの共通教育システムの構築に取り組みます。

また、このプログラムの基礎には「共通善」という考え方があります。わたしたちが考える「共通善」とは、個人の利益と社会共通の利益を同時に実現していくことです。グローバルな競争が激化する中で、東アジアの「共通善」を実現できる素質を持った人材の育成は急務です。

プログラムの概要

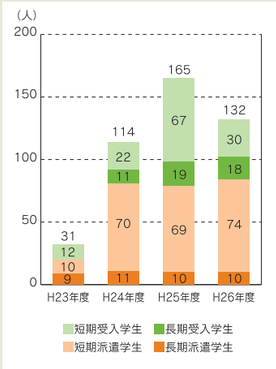
キャンパス・アジアとは

2009年10月、第2回日中韓サミットにおいて、日中韓の大学の間で単位の互換や交流プログラムなどの質の高い交流を行うため、3国が協力していくことが合意され、これをふまえて教育分野でのプログラム構想の検討が開始されました。

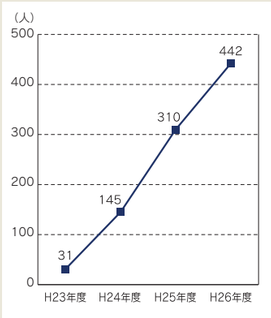
そして2010年、第3回日中韓サミットにおいて、3首脳間で、日中韓を中心にASEAN等への拡張を視野に入れた「キャンパス・アジア」構想の早期実現で一致しました。これをうけて、日中韓の大学が質の保証を伴う交流を拡大し、学生や教員の留学・移動を活発にして人材育成をおこなう「キャンパス・アジア」事業が発足しました。

2011年11月、文部科学省のキャンパス・アジア事業に10校のプログラムが選ばれ（タイプA－I）、岡山大学キャンパス・アジアプログラムもそのひとつとして採択されました。これらの大学は、大学院レベルの交流や学部レベルの交流、研究をベースとしたプログラムから、3国の学生が一緒に3国を回る企画まで、多様な内容のプログラムを実施しています。こうしたパイロットプログラムを通じ、大学間の相互交流を図り、協力して人材を育成するとともに、東アジアの共通教育システム、単位互換制度、成績管理、学位授与システムのモデルを構築しようというのが、この事業の狙いです。

キャンパスアジア留学生数



キャンパスアジア留学生総数



岡山大学のキャンパス・アジアプログラム

岡山大学が実施する「東アジアの共通善を実現する深い教養に裏打ちされた中核的人材育成プログラム（Program for Core Human Resources Development: For the Achievement of Common Good and Re-evaluation of Classical Culture in East Asia）」は、東アジアの拠点校である岡山大学、吉林大学、成均館大学校が協力し、東アジア全体の発展に資する広い視野と教養を持った若い人材を、それぞれの地域のニーズに即して育成するのが目的です。

具体的には、3校がコンソーシアムを形成し、単位互換、共通授業、ダブルディグリー教育（並行して2校で学位取得）、ジョイントディグリー教育（複数校が共同で学位授与）等の包括的制度を整備し、学部学生から大学院生までを共同で教育するシステムを構築します。

将来的には、この3校が東アジアにおける深い教養に裏打ちされた共通善の涵養、地域社会を担う中核人材育成、人材交流ネットワークの拠点となることを目指します。

「アジアンクラット」の育成

このプログラムで3校が協力して育成する次世代の地域中核人材とは、深い伝統的な教養をもった「アジアンクラット」です。「アジアンクラット」とは、アジアの共通善に資する地域行政、民間組織の指導者、地域療をリードする医療人、3国の協業をリードできるグローバルな視野を持った企業中堅幹部候補などで、東アジアが共通に抱える様々な分野における課題に向かうリーダーです。

「共通善」とは

このプログラムを通じて、学生も教員も東アジアの「共通善」とは何かについて追究していきます。「共通善」とは、個人の利益と社会共通の利益を同時に実現していくことです。幸福という考え方は個人によって様々ですから、「共通善」の理解も個人によって違ってきます。そうした違いをお互いに議論していくこと自体も、「共通善」を実現していくプロセスです。

東アジアの共通善を追求
地域中核人材の育成プログラム

東アジアの共通善を追究

東アジアの伝統的価値観、文化は多様です。しかし共通点も数多くあります。このプログラムでは、伝統思想から現代政治・社会までの様々な分野においてこの問題を整理・検討し、それをどのように教育していくか、または学んでいくかを体系的に研究し実践しています。

社会の共有された伝統的価値を再解釈し共有化

東アジアに共通の伝統的価値を探るためには、歴史的なアプローチが必要です。そして、それを現代の社会に 適応させて再解釈し、共有化していくことが必要です。それとともに、現代の東アジアに共通する価値や課題もあります。私たちは、こうした課題に、様々な活動をつうじて取り組んでいます。

共通善教育の研究

3国間の対立点だけを浮き彫りにするのではなく、価値観の違いが何に根ざしているのかを相互に理解し合ったり、グローバリゼーションの負の側面に対して東アジア的な価値観をベースに対応策、解決策をともに模索したりする作業は、このプログラムの根幹をなすものです。

こうした作業は、教員のレベルでは教育研究会をつうじて議論されます。共通善教育研究会は、共通善教育を実施するにあたって、どのような教育を行うかを検討する研究会です。この研究会は、経済部会、伝統思想部会、漢字文化部会、歴史認識部会の4つのグループに分かれて活動しています。さらに、3大学共同による「共通善教育研究フォーラム」等を開催し、定期的に議論を積み重ねています。

共通善教科書の編纂

このプログラムでは、教育研究会の成果を教科書にして活用しています。最初に発行された『キャンパス・アジア共通教科書シリーズ1　東アジアの共通善を実現する深い教養に裏打ちされた中核的人材育成』は4カ国語（日英中韓）で発行され、pdf版のダウンロードが可能なほか、ネット上で講演が聞けます（英語字幕付き）。また、この講義を受けたキャンパス・アジア留学生たちの感想文が、ホームページで公開されています。

これらの教科書は、キャンパス・アジア科目、サマースクール等のほか、通常の大学講義（教養教育科目、学部専門科目）でも活用を進めています。

■2012年 3 月26日～27日
共通善教育研究フォーラム Ⅰ
本部棟　6 階第一会議室
■2012年 5 月28日
共通善教育研究会例会③
国際センター長室
■2012年 8 月 2 日
共通善教育研究会例会④
一般教育棟　小会議室
■2012年11月 3 日～ 4 日
共通善教育研究フォーラム Ⅱ
理学部　大会議室
■2012年11月23日～24日
東アジア古典学学術会議
韓国　成均館大学校
■2013年 2 月 4 日
山東大学葛泉教授（中国行政管理学会理事）特別講講演会『孔子思想がもたらした人類文明への貢献』
岡山大学文法経講義棟　12番教室
■2013年 2 月12日
共通善教育研究会例会⑤
■2013年 3 月 5 日～ 6 日
2012年度 共通善教育研究 国際シンポジウム
岡山大学理学部　大会議室
■2013年 4 月26日～27日
国際学術会議
韓国　成均館大学校
■2013年 5 月24日
共通善教育研究会例会⑥　一般教育棟　C23室

■2013年12月 3 日
キャンパスアジア共通善研究会例会（経済部会）
一般教育棟　小会議室
■2014年 1 月13日
共通教科書編集協議
中国　吉林大学
■2014年 1 月14日
共通教科書編集協議
韓国　成均館大学校
■2014年 1 月29日
共通善教育研究会例会⑦（伝統思想部会、漢字文化圏部会、歴史部会）
一般教育棟　小会議室
■2014年 2 月17日
キャンパス・アジア共通善教科書編集国際合同会議（経済部会）
■2014年 3 月 7 日
共通善教科書編集協議（伝統思想部会、歴史部会）
韓国　成均館大学校
■2014年 3 月27日
共通善教科書編集協議（伝統思想部会、歴史部会）
中国　吉林大学
■2014年 4 月 1 日
日中韓共通教科書出版打合せ（経済部会）
東京
■2014年 5 月30日
共通善教育研究会例会⑧
一般教育棟　小会議室
■2014年 8 月18日
共通善教育研究会例会⑨
一般教育棟　小会議室

共通善についての学生討論

キャンパス・アジアプログラムに参加する学生は、共通善教科書、キャンパス・アジア共通授業で学ぶだけではなく、リージョナル・カンファレンス、サマースクール、学生フォーラム等をつうじて実践的に共通善について考えます。こうしたプロセスをへて、各自が共通善への理解を深めていきます。

共通善授業、共通善教科書がプラットフォームとなり、アクティブ・ラーニングをつうじて、各自がその上に自らの解釈や実践的活動を構築していきます。

サマースクール

2013年 8 月17日～19日
CAMPUS Asiaサマースクール2013

8 月 7 日(水)	「正義論」
8 日(木)・9 日(金)	「共通善とは何か―東洋と西洋における共通善の比較」
10日(土)	「資料にみる岡山の歴史と社会」
11日(日)	日本文化体験「曹源寺散策（座禅体験）」
12日(月)・13日(火)	「日中韓三国関係：歴史問題と歴史認識」
14日(水)・15日(木)	「日中韓三国の経済協力と東アジア」
16日(金)	NPO法人町屋トラスト
17日(土)	茶の湯デモンストレーション
18日(日)	自然体験「犬島自然の家」
19日(月)	「論語入門」

2014年 8 月 4 日～15日
CAMPUS Asiaサマースクール2014

Ⅰ　「正義論」・共通善とはなにか
「東洋」と「西洋」における共通善との比較
8 月 4 日(月)　lecture・ワークショップ
5 日(火)　lecture
Ⅱ　日中韓三国の経済協力と東アジア
8 月 6 日(水)　lecture
7 日(木)　水島自動車工場・クロスカンパニー
Ⅲ　東アジアの文化交流
8 月 8 日(金)　lecture
11日(月)　lecture
12日(火)　後楽園・曹源寺
Ⅳ　日中韓・東アジア三国関係史
8 月13日(水)　lecture・牛窓町
14日(木)　lecture・討論会
Ⅴ　論語入門
8 月15日(金)　閑谷学校

学生フォーラム

2013年 9 月 4 日	「私の理解した韓国／中国／日本：共通善へのアプローチ」
2014年 2 月13日	「私の理解した、中国・韓国・日本」記念講義「共通善～日中韓 3 国の平和的共働のために」
2014年 8 月21日	「東アジア共通善の実践に向けて」記念講義「東アジアの若者の共通善」

全ての学生に
キャンパス・アジアの教育を

岡山大学では、ほぼ全ての学部、大学院がこのプログラムに参加しています。また、学部新入生から大学院生、さらには社会人を含めて、一貫した教育を目指しています。

リージョナル・カンファレンス

フィールド・ワークをつうじて、キャンパス・アジアの留学生とともに岡山および東アジアの地域について理解を深めます。大学周辺の地域社会と交流しながら、地域が抱える様々な課題について、現地の人々との交流を通じて議論します。こうした授業をつうじ、中韓の学生とふれあい、東アジアに目を向けるきっかけを作ります。

中韓ワークショップ

短期で中国、韓国を訪問し、現地で歴史、経済、社会を学ぶとともに、協定校の学生と議論したり、特別講義を聴いたり、さらに実践で中国語、韓国語を学びます。東アジア諸国への関心が高まる海外集中授業で、とりわけカリキュラム的に留学が難しい医歯薬系、自然系の学生にとっては、貴重な経験になります。

サマースクール

東アジアに対する問題意識、関心が高まったところで、サマースクールに参加し、東アジアの伝統、思想、文化、経済等を2週間のサマースクールで学びます。東アジア人として教養的ベースを身につけるとともに、3国の学生が本格的に議論します。

短期留学

短期留学を通じて、中国、韓国の文化、伝統にふれ、人々と交流します。また、語学も集中的に鍛え、長期留学に向けた準備をします。

派遣前集中教育プログラム

長期留学を控えた学生に対し、ネイティブの講師、チューターが集中的に語学指導します。また、キャンパス・アジアカフェで実践的会話トレーニングを行い、短期集中で語学力をアップさせます。

長期留学

吉林大学、成均館大学に1年間留学し、専門分野での能力を高めるとともに、多様なバックグラウンドを持つグループの中でイニシアティブがとれる力を養います。また、東アジアの伝統と価値観を批判的に継承できる深い教養を養います。

実践学習ワークショップ

帰国後は、ワークショップ等で、実際にグループワークを指導し、実践的な能力をさらに向上させます。ナノバイオコースでは、最先端の知識と技術にふれながら、こうした分野で教員、学生らが共通善教育をつうじて相互理解、共同研究をいかに深めることができるかを議論します。自然系ワークショップでは、3国学生・院生同士の研究プレゼンをつうじて、各分野ごとに相互理解を深めていきます。マルチリンガル授業では、ひとつの授業の中で多言語でディスカッションをおこない、言語による発想の違いを引き立たせるとともに、多言語が飛び交うディベートに慣れていきます。

キャンパス・アジアネットワーク

卒業後は、キャンパス・アジア同窓会等をつうじて交流を継続します。また修了生にリージョナル・カンファレンス、中韓ワークショップの指導をお願いして、相互に学びあうシステムを構築しています。

キャンパス・アジア 構想・拡大・深化
第1部
高い理念と熱い想い 東アジア型グローバル教養教育

学びの指針　共通善教科書編纂

共通教科書作成までのプロセス

共通善は日中韓学生の心にある

↓

学生との討論＋研究会

↓

議論をふまえて編集方針決定

↓

共通テキストの編纂

↓

テキスト活用（講義・ゼミ）

↓

共通テキストの改善

共通善教育研究会での討論

共同教科書編纂会議

共通善教育研究会

共通善教育研究会の中にある伝統・思想部会、歴史部会、漢字文化部会、経済部会がそれぞれテーマを決めて、共通教科書作成の検討会議を行っています。時折、学会さながらの白熱した議論になります。新しい教科書を作る熱気がみなぎっています。

↓

サマースクール

共通善教育研究会で検討された内容は、まずサマースクールで検証されます。各担当者がサマースクールの講義で簡易版の共通教科書を使い、学生と討論しながら内容をアップデートしていきます。この内容は、共通善教育研究会にフィードバックされます。

↓

教科書の編纂

ある程度内容が固まったところで、教科書編纂チームが編纂を開始し、キャンパス・アジア事業プロジェクト・チーム会議の承認を得て教科書を出版社から刊行します。

↓

教科書の利用

出版された教科書は、キャンパス・アジア授業や一般の授業で利用されます。利用していく中で出てきた改善点は、次の版で修正されていきます。

共通教科書による経済の講義

経済学共通教科書を使った講義風景（田口雅弘教授・経済学部専門基礎科目「世界経済事情」）

経済部会の共通教科書の例

この教科書は、東アジア全般の動きと日中韓各国の諸問題を織り交ぜながら、東アジア全体の利益、各国の利害が複合的に見えるように構成されています。したがって、全体を通じて読者を一定の考え方に誘導するのではなく、東アジア全体の利益は抑えておきながらも、各国の立場や利害もはっきりと明記するものです。むしろ、そうした違いを比較することにより、学生（読者）がコンフリクトの落としどころを自ら考えたり討論したりすることを意図するものです。ターゲットとする読者は以下の通りです：

キャンパス・アジア多言語セミナーの授業風景（荒木勝教授・副学長）

キャンパス・アジアの留学生：上記の人材育成に教材として利用します。

経済系学部の学生：岡山大学などで、授業の教材として利用します。

ビジネスマン：東アジアに関わるビジネスマンの必読教養書を目指します。

したがって、経済系学生以外も読むことを念頭に、内容は濃く、しかし平坦な表現を使って記述します。

キャンパス・アジア共通教科書　東アジアの経済協力と共通利益

編著：田口雅弘、金美徳　ふくろう出版　2015年

目 次

Ⅰ　はじめに
グローバリゼーションと東アジア
田口雅弘（岡山大学）……6

Ⅱ　東アジアの経済連携
―アジアと日本の知恵を生かす―
金美徳（多摩大学）……7
1. アジア・ユーラシアダイナミズムといかに向き合うか
2. アジア平和に対する敏感さで信頼関係を築く
3. 地政学的立地を見極めグローバル戦略展開
(1)北東アジア経済圏の地政学的優位性
(2)北東アジアの域外経済連携
(3)日中韓経済の知恵を生かす
(4)アジアはエネルギー資源のフロンティア
(5)ユーラシア大陸を繋ぐ国際物流拠点

Ⅲ　日本経済の発展と構造変化
釣雅雄（岡山大学）……34
1. 戦前日本経済の繁栄と後退
(1)戦後の混乱からの回復：ハイパーインフレと経済政策
(2)高度成長期
2. 戦後復興から高度成長期へ
3. 石油ショックからバブル経済
(1)石油ショック
(2)円高とバブル経済
4. 長期不況と構造問題

Ⅳ　日本経済が直面する様々な課題について
下井直毅（多摩大学）……54
1. はじめに
2. 人口減少と今後の経済成長
3. 貿易の自由化の動き
(1)自由貿易圏の拡大の動き　社会保障と税のあり方
(2)日本のFTA・EPAの動き
(3)RTAのメリットとデメリット
(4)今後、日本が目指すべき道について
4. 為替レートの動き
(1)円ドルレートの推移
(2)重要なのは実質為替レートの動き
(3)円高や円安のメリットとデメリット
(4)円高が長期的に日本経済に及ぼす影響
(5)円高時代あるいは円安時代にやるべきこと
5. 社会保障と財政再建への道
(1)日本の財政赤字と社会保障費の拡大
(2)財政赤字の問題点
(3)財政赤字の維持可能性
(4)なぜ消費税増税なのか
6. おわりに

Ⅴ　胡錦濤・温家宝体制の回顧と今後の中国経済展望
巴特尔／バートル（多摩大学）…74
1. はじめに
2. 胡錦濤・温家宝体制の回顧
(1)経済規模
(2)対外貿易
(3)対内外投資
(4)世界最大の自動車市場
3. 習近平・李克強体制の課題
(1)経済構造の転換
(2)「国進民退」の克服
(3)格差是正
(4)人口対策と生産性の向上
(5)エネルギー需給問題と環境対策
(6)地方経済と地方債務問題
(7)金融改革
4. おわりに

Ⅵ　韓国経済の現状と課題
金美徳（多摩大学）……98
1. 韓国経済の現状と課題
2. 険悪な日韓関係と密接な日韓経済
3. 韓国企業と日本企業の経営比較
4. 日韓企業の強みと戦略
5. 韓国企業のグローバル戦略
6. 韓国企業の弱み

Ⅶ　貿易投資に見る日本と中国の経済関係
滕鑑（岡山大学）……132
1. はじめに
2. 日中の貿易投資の展開
(1)1978年～1990年：激しい変動期
(2)1991年～1998年：安定的拡大期
(3)1999年～2011年：飛躍的拡大期
3. 日中の貿易パターン
4. 日中の比較優位構造
5. 日中間の産業内貿易
6. アジアの分業構造と日本の対中直接投資
7. 日中経済摩擦
(1)貿易不均衡の拡大
(2)貿易摩擦
(3)知的財産権と対中投資環境
8. おわりに

Ⅷ　中日関係と経済協力の課題
沈海涛（吉林大学）……150
1. 日中関係と経済協力へのアプローチ
(1)東アジア地域における中日経済協力への視座
(2)中日関係及び東アジア地域協力の問題点
(3)東アジア地域協力の変容に中日経済関係は？
(4)「政冷経熱」または「政冷経涼」と言われた日中関係
2. 東アジア地域における中日関係と経済協力
(1)2000年以降の中日貿易関係の推移
(2)中日韓協力の枠組みにおける中日環境協力
(3)「戦略的互恵」を求める日中経済関係―エネルギー協力を例として
3. 日中関係及び日中経済協力の課題
(1)「チャイナ・プラス・ワン」と日中経済関係の競合
(2)「四点原則共通認識」後の中日関係の行方

第2部 包括的システムの構築 トライアングル連携教育

トライアングル連携教育とは、日中韓3校が連携しておこなう教育システムで、様々な形態で運用されています。

中韓ワークショップは、1週間程度で協定校およびその周辺地域を訪問し、講義、現地学生とのディスカッション、企業視察、歴史遺産視察等をおこなうものです。キャンパス・アジアの入門編です。

サマースクールでは、共通善について本格的に学びます。3校の学生が合同で、東アジアの哲学、思想、歴史、伝統から、各国の現代社会、地域の課題などを学び、さらに地域とも交流しながら討論するプログラムです。

まちなかキャンパス、リージョナル・カンファレンスでは、地域の人々と交流し、お互いの国を紹介したり、地域の諸問題（環境問題、少子高齢化、まちづくり、産廃問題、地域の歴史と現代）について時には合宿形式で議論します。

事後教育では、長期留学を終えた学生、これから留学する予定の学生、岡山大学に留学中の学生が、同じテーブルを囲んでマルチリンガルで議論をします。

総仕上げの学生フォーラムでは、共通善を中心とした学生、院生のプレゼンの後、3校の学生、院生による徹底した学生のディスカッションがおこなわれます。

キャンパス・アジアでめざす
東アジア次世代リーダーへの道

吉林大学　岡山大学　成均館大学校

はじめの一歩

リージョナル・カンファレンス

フィールド・ワークを通じて、キャンパス・アジアの留学生とともに岡山および東アジアの地域的共通諸課題について討論します。

知識は力

サマースクール

日中韓の集中講義に参加し、東アジアの伝統、文化、思想を学び、東アジア人としての教養的ベースを身につけます。

文化にふれる

SS/SV 短期留学

ショートステイ・ショートヴィジット、短期語学留学を通じて、両国の文化、伝統にふれ、人々と交流します。自然系ワークショップ、ナノバイオコースなどのプログラムも充実しています。

C A M P U S

語学を磨く

派遣前集中語学研修プログラム

長期派遣（1年）を控えた学生に対し、ネイティブのチューターが集中的に語学指導します。また、キャンパスアジア・カフェで実践的な会話トレーニングを行い、短期集中で語学力をアップさせます。

留学で飛躍

長期留学

吉林大学、成均館大学校に半年から1年留学し、専門分野での能力を高めるとともに、多様な文化的バックグラウンドを持つグループの中でイニシアティブをとれる力を養います。また、東アジアの伝統と価値観を批判的に継承できる深い教養を養います。

中核的リーダーへ

帰国後

長期派遣を終えた学生を、帰国後研修や帰国後フォローアップ語学プログラムにより継続的にサポートします。また、リージョナル・カンファレンスやキャンパス・アジア留学生との交流で、中心的な役割を担っていきます。将来的には国際的な視野を持ちながら地域に貢献する地域行政の指導者、地域医療をリードする医療人、国際協業をリードする企業中堅幹部候補として、巣立っていきます。

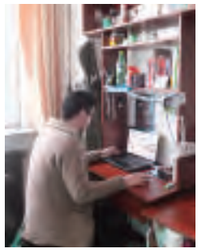
A s i a

長期留学生の声（派遣）

キャンパス・アジアは真摯な議論のプラットホーム

派遣 中国・吉林大学へ留学

山田　翔 *Sho Yamada*
岡山大学経済学部経済学科4年生
■留学期間：2013年3月～2014年2月（1年間）



留学の後半からは、経済学部で中国人の学生と一緒に経済専門授業を受け始めました。受講した講義は西方経済原理（マクロ経済学）、政治経済学（マルクス社会主義）と会計学で、それらは中国語の授業と違って、先生の話すズピードはより早く、授業の内容も専門的で、この時点でも私の中国語はまだまだで（今でもまだ難しいのですが…）、毎回の授業の度に必死になって聞き取ろうとしていました。中国の学生たちは日本の学生たちと異なり、授業中に先生の問いかけに大きな声で返答したり、自分の意見を発言したりするなど、積極的に授業に取り組み、休み時間にも大勢の学生たちが先生に分からないところを聞きに行ったり、休日でさえも朝早くから図書館に勉強に行き目的意識をもって学習する中国人学生の勤勉な姿勢に刺激を受け、これは日本人学生も見習うべきところだと痛感し、私も彼らのようにもっと努力して学習しようと決意を新たにしました。

またこの留学期間中に起こった日本の尖閣諸島国有化に端を発した中国での反日運動の高まりは私にとって衝撃的な出来事でした。…そんな状況下においても、本当に沢山の友人が「両国の政治と友情は全く関係がない。」と励まし、「外出の際には、極力日本語を話さないように…」などとメール等で注意をしてくれました。中国全体がたとえどんなに反日感情が高まっている中でも、今までと変わらずに接してくれる友人たちの優しさに本当に感動しました。

日中国交正常化40年間以来、日中関係が最も悪化したと言われた年に留学し、両国の関係が崩れていくのを実際に目にすると同時に、中国人の思いやりや情の厚さに触れ、彼らの良い所に気づくことによって、留学する前まで私がイメージしていた乱暴でマナーが悪いなど、マイナス面のたくさんあった中国人像がだんだんと変わっていき、しだいにはこの人たちと一生付き合っていきたいと思えるようになりました。そこで、関係が冷え切っている今だからこそ今まで以上にもっと両国民間交流を盛んに行い、多くの日中両国民がお互いに持っている誤ったイメージを変え、相互理解を推し進め、まず草の根から日中友好関係の修復をすることが重要であると思います。将来、私もそのようなお手伝いが出来れば、このプログラムに参加させてもらった恩返しが少しでもできるのではと思います。

派遣 韓国・成均館大学校へ留学

徳永 百合 *Yuri Tokunaga*
岡山大学教育学部養護教諭養成学科1年生
■留学期間：2013年3月～2014年2月（1年間）

「東アジアの相互疎通と漢字文明」は、「東アジア古典学入門」よりも授業に参加しやすく、私も何か努力して成果を残したいと思い、韓国人1人、中国人2人、日本人の私の4人でグループを作り、発表することにした。テーマは、東アジア政治・経済共同体の可能性と展望（TCS－日中韓協力事務局、TPP－環太平洋戦略的経済連携協定、RCEP－東アジア地域包括的経済連携の活動を中心に）というものだった。私たちのグループは、これに加え、日韓の竹島問題と日中の尖閣問題の2つの領土問題についても取り上げた。非常に敏感な問題であるが、学生同士だからこそできる正直な意見交換は、とても新鮮で、リアルで、充実感があった。意見がぶつかり、まとまらないことも多々あったが、そんな過程の一つ一つが貴重な経験だった。そして、この授業を通して、キャンパスアジアの存在意義についても考えるようになった。将来、国の外交に関わりたいと願っている優秀な学生同士が、学生時代から交流し、自由に意見交換できる制度があれば、東アジアの外交は今よりも良い方向に進んでいくと思う。そして、その制度がキャンパスアジアではないかと思う。キャンパスアジアの留学制度は、私が韓国で見てきたどの留学制度よりも恵まれていると感じた。学生間の交流が行える場が多くあり、十分な奨学金も支給され、宿舎の利便性も良く、困ったときには手助けしてくださる方がたくさんいたため、勉強に専念できる時間も十分にあった。時にそれが重荷に感じることもあり、自分の無力さを痛感することもあったが、キャンパスアジアの留学プログラムは、今後、もっとレベルを上げながら広め、継続させていくべきだと感じた。

長期留学生の声（受入）

受入 中国、韓国から日本・岡山大学へ留学

蘇　暢
吉林大学外国語学院学部3年生
■留学期間：2013年3月～2013年9月（半年間）

中日韓三国の先生や学生たちの交流および討論によって、「歴史認識」の問題について、自分なりの考えも出てきた。「歴史認識」という問題はコインの両面であり、またニワトリとタマゴの関係にも比喩されることができる。つまり、国への愛国心というのはどの国でも同じように利益や国際地位のために、自分側に有利な点だけ発言してしまうということである。歴史認識の問題が解決できないと、国と国の貿易や文化の交流もうまくできないと思う。つまり、過去とどう向き合うかという歴史問題が非常に重要な課題だと思う。ヨーロッパと比べて、アジア諸国間の交流がどれほど不十分だと思って、これからも、もっと交流団体を作って、一緒に努力するべきじゃないのではないでしょうか。例えば、キャンパスアジアの教養科目サマースクールのような、韓国と中国から学生が来て、ここで単位や証明を授与するというような制度にして、また、帰国しても通用するようなチャンスが増えれば、お互いへの交流や、協働も前に大きな一歩を進んだのではないでしょうか。

もう一つ、これからの道を考えてみると、ただの謝りや責任を取ることだけではなく、お互いの歴史を認識し、また歴史から有意義なものを見つけだすことである。つまり、歴史の中で悪い意味のものだけではなく、われわれ東アジアの進歩や、明るい未来も見えるのではないでしょうか。トランスナショナルな歴史像を求めることは、交流が必要である。歴史というのに対して、もし誰も自分の被害を強調してばかりいると結果はできないと思う。だからわれわれが交流によって、トランスナショナルな歴史像を求めることにがんばりたいと思う。

楊 程博
吉林大学大学院数量経済学博士1年
■留学期間：2013年3月～2013年9月（半年間）

中日韓三国は地理的な近接性、経済的な相互補完性、経済面での協力の発展及び人的交流の増加に伴い、相互に経済や貿易の重要なパートナーとなり、地域の問題及び国際問題における協調と協力を間断なく強化してきている。中日韓三国の協力は東アジアの未来に関係するが、三国の未来を開く鍵、即ち、三国の「共通善」へのアプローチは二つである。その一つは過去、即ち歴史認識問題に関しての再検討で、もう一つは現在、即ち経済、政治、文化などの分野における協力をさらに強化することである。……経済協力に基づいて、相互理解及び相互信頼を高め、未来におけるより良い三国間協力のために多様な交流の経路を拡大するという目的に向け、三国は、人と人との交流、文化、教育といった様々な分野において協力を強化する。青年の間の接触を増進させるために、人的交流の奨励及び促進を継続する。また、有形及び無形の伝

統的文化遺産、文化的多様性並びに文明間対話の保護及び発展を始めとする分野における協力を強化するために、文化交流及び文化協力を精力的に発展させる。 教育分野における三国間協力を引き続き支援する。三国は、キャンパスアジアなどのようなプログラムを通して、それぞれの高等教育機関の間の学生交流を拡大するための協力を強化し、互いの成績評価、学位及び単位の相互認定などの制度を促進する。

李 賢珠
韓国成均館大学校文科大学博士2年
■留学期間：2012年4月～2013年3月（1年間）

韓中日の共通善という漠然とした概念は、小さな連結のひもから具体化するようだ。漢字文化圏、儒教文化という共通点に対する認識と文化的同質性を皮膚で確認した契機であった。もしかしたら、東アジア三国のつながりも、こうした文化的連帯感からはじめることができないかという気がする。

人に初めて会う時、必ず確認することになる名前もそうである。西洋人と名前を交換する時は、互いに名前の発音を正確に確認して記憶するのに止まってしまう。日本や中国の友人たちと初めて会った時、互いの名前に対して、短い印象を話しながら共感できる点が、非常に楽しかった。初めては少しぎこちない雰囲気でも、名前を契機にし、話が続いて親しくなることもあった。文化の共存がとても大きな連帯感を形成することになるのが実感できた。

金 昭延
韓国成均館大学校文科大学学部3年生
■留学期間：2012年4月～2013年3月（1年間）

留学生活はただの学問的は修学や言語能力の向上のみが全てだとはいえない。海外での生活で自らの国際的な感覚やヴィジョンを広げられるというそれ以外のメリットも存在する。キャンパス・アジアプログラムのスローガンとその内容に初めからすべて共感し、言語や専攻が全て相応しい最初から完成している人材で始まることも良い。それは皆ができることでもないし、それより外国での体験を通じてその国を理解し、試行錯誤を重ねながら言語の実力が増え、将来東アジア共同体の形成に必要なリーダーシップを持つ人材と成長することのプログラムの一番大事なところではないかと思う。この1年の経験は私に短い間であったが、日本という国がどのような国であり、その国の文化や政治、また歴史認識がどのようになっているのか自ら体験することができた、とても大事な時間となった。特に去る2012年に激化した東アジア領土問題は今まで領土紛争や歴史問題に対して特に認識していなかった周りの日本人の友達に好奇心を呼び出して、とても敏感な問題であるため普段はあまり言えなかった領土や歴史紛争に対する熱い議論もできるようになった。また現地で直接に学ぶ日本の政治や東アジアの古代史、明治憲法、アジア主義に対する認識などの授業で、遠い韓国からただ文字だけで‘読んだ’日本人の認識というものとはまた違う、自ら体験して‘解かった’知識を身につけるようになった。そういう意味からみるとキャンパス・アジアプログラムはそのきっかけを提供したいい機会となったともいえる。

短期留学

体験の中から学ぶ隣人たちの暮らしと環境

自らの体験を通じて学ぶ

菊池　章 *Akira Kikuchi*
工学部機械システム系2年生

■留　学　先：中国・首都師範大学
■留学期間：2013年8月5日～2013年8月31日（3週間）

日本で報道された中国に関するニュースにはどのようなものがあるだろうか。「住宅の崩壊映像」「尖閣諸島での領土主張問題」、「大気汚染とPM2.5」、「インターネットと情報規制」、「模倣品や海賊版の商品」そして「反日デモ」などが私には浮かび上がる。このようなニュースは誰もが聞いたことがあると思う。確かにこれらの問題は、紛れもない事実であるし日中で協力して解決策を模索していかなくてはならないものばかりであると思う。だが、こういったニュースは時にあまりにも取り上げられすぎているのではないかと思う。つまり、私が危惧しているのは、メディアが事実の側面を強調するとともに、それを見ている我々がさもそれが全てであるかのように捉えてしまうという事態である。そしてさらにその情報で中国を嫌いになってしまった大人たちが、中国とはどのような国かを子供達に伝えていく現実である。（・・・）

私が言いたいのは、視聴者である国民が偏った情報だけに左右されずに、偏見を持つことなく中国という国を見て欲しいということである。それに日本も同じようなことをしていたという事実を棚に上げて他国を批判するのは間違っていると思う。中国も日本もお互いの嫌な部分にばかり目がいってしまいがちであり、尊敬すべきたくさんの点に盲目的になってしまっているのではないだろうか。そしてこのことがわかった私にできることは、自分が体験したありのままの事実を、偏見をもって中国を見つめている人達に伝えていくことだと思った。

人々との交流を通じてその国を知る

山田 夏実 *Natsumi Yamada*
文学部人文学科4年生

■留　学　先：中国・首都師範大学
■留学期間：2013年8月5日～2013年8月31日（3週間）

国と国の問題となると複雑で難しいのですが、人と人との関わりとして考えると、案外スムーズにいくように思います。初めは仲良くなった人の国が○○だったから、○○人に良くしてもらったから、その様な理由から外国への興味を広げて、いいところも悪いところも含めてその国のことを知る。そのような経験を積み重ねていくことで自分も成長出来るし、交流における草の根活動にもなるのではないかと考えます。

ありのままの社会を体験

岡村 優衣 *Yui Okamura*
文学部人文学科2年生

■留　学　先：中国・首都師範大学
■留学期間：2013年8月5日～2013年8月31日（3週間）

授業のない午後は、一緒に留学に来た他のメンバーや、留学先でできた様々な友達と一緒に大学の外へ出て、北京という都市、中国という国を自分の目で実際に見て、肌で感じました。北京は実際に生活してみると、非常に暮らしやすい都市でした。自分の母国である日本は先進国だと、ずっと考えていましたが、交通手段などはむしろ北京や上海の方がわかりやすく、非常に発達しているのではないかと思わずにはいられませんでした。しかし、やはり貧富の差は大きいようで、お年寄りや小さい子共までが物乞いをしていたり、日本では決して見られないような胸の痛む光景を何度も目にし、その度に複雑でやりきれない思いを抱きました。どうにかしたいけれど、どうにもできない自分の無力さを何度も感じ、世界の厳しい現実を直視せざるを得ませんでした。異文化という面では、日本と中国は隣国であり、昔から影響しあった国ではあるけれど、多くの違いがありました。中国人は日本人のように遠回しな言い方はしないし、接客やサービス面でも日本とは全く違い、驚きや戸惑いを感じることも多かったですが、逆に日本にはない中国の良さも感じました。

このように、座学で言語を学ぶだけではなく、その社会の内側や問題点にまで目を向け、今回の留学の考えるべき大きなテーマである「共通善」について深く考えることができました。

知ろうとする意欲が交流の第一歩

新居田 亮子 *Ryoko Niida*
法学部法学科2年生

■留　学　先：韓国・成均館大学校
■留学期間：2013年8月3日～2013年8月24日（3週間）

いろんなことがあった3週間でしたが、私が最も印象的だったことは昨年度岡山大学に短期留学へ来ていた成均館大学校の学生さんとの交流でした。初対面で韓国語を上手く話せない私に日本語でとても優しく接してくれました。そして、会話をしていて日本や日本語の勉強に対してとても熱心なことが伝わってきました。そのことを感じて、日本人である私ももっと韓国語を勉強し、そこから韓国のことを知る必要があると思いました。今日では日韓の政治的対立が報道され、反日的な社会風潮が強まっている気がします。私もこの留学について家族に相談した時、最初は反対されました。しかし、私が出会った人達は大勢の中のほんの一部の人達ではありますが、私達日本人にとても親切で、いい印象を受けました。実際に話をして、お互いをもっと知ろうという姿勢が本当に大切なことだと感じました。この関係をいつまでも続けていきたいと思いました。そのことに初めて気が付くことができ、とても有意義な3週間を送ることができたと思いました。

人の温かさに触れ 語学習得の意欲を高める

田中 佑佳 *Yuka Tanaka*
医学部保健学科2年生

■留　学　先：韓国・成均館大学校
■留学期間：2013年8月3日～2013年8月24日（3週間）

3週間という短い時間でしたが、韓国に行って感じることがたくさんありました。最も印象的だったのが、韓国で初めてスーパーに行ったときのことです。私たち全員と、先生とで行ったのですが、お店のおじさんが私たちが日本から来た留学生だと知って、こう言いました。「日韓の間でさまざまな政治的問題はありますが、仲良くしましょう。少しでも韓国に対して良い印象をもって帰ってもらいたい。」そして私たち全員に缶コーヒーをおまけしてくれました。まだまだ韓国語の勉強不足で、ただただ“감사합니다”と言うことしかできませんでしたが、とても温かい気持ちになりました。

また、韓国の人は親切な人が多く、地下鉄でもお年寄りには必ず席を譲り、空いている席があれば、知らない人にでも向こうの席空いてますよと声をかけ、わたしたちが迷って、黙って「こっちですよ」と助けてくれました。韓国の人は他人であっても親切で、人とのつながりを大切にしているのだなあと感じ、見習うべきことであると感じました。ここには全て書ききれませんが、たくさんのいい出会いをし、人の温かさに触れ、文化の違いを発見していく中で韓国と日本それぞれのよさを改めて感じることができ毎日本当に新鮮でした。このプログラムに参加できて心からよかったと思います。これからもっと韓国語の勉強を頑張りたいと思います。ありがとうございました。

CA中韓留学ワークショップ

プログラムの深化と拡大

異文化体験から「共通善」探求へ

「CA中・韓留学体験ワークショップ」は、2012年度、2013年度から本年度にかけて、改良を重ねてきました。

2012年度ワークショップの主要な目的は、①中国・韓国への関心を喚起すること、②実体験を通じて相互理解には何が必要かを知る機会とすること、③これらによりCAプログラムでの短期・長期留学を促すこと、でした。したがって、ワークショップを人材育成プログラムの導入と位置づけ、参加学生には基本的に海外経験のない1、2年生を優先して選抜しました。

2013年度は、基本的目的は踏襲しつつ、①東アジアというリージョナルな視点の導入、②「共通善」探求というテーマの強化を念頭にしました。そのため、海外留学（とりわけ欧米）の経験者等を含め新たに中国・韓国への関心や東アジアという視点を開くことが効果的に行える可能性を含めた参加学生の選抜を行いました。事前教育から現地での研修におけるワークショップにかけて、「共通善」とは如何なるものかを各人が考察し、議論する機会を拡充しました。

2014年度は、東アジアの共通善に基づいたワークショップの拡充に重点をおき、選抜学生には、海外留学経験者のみならず本プログラムの長期留学経験者や交流プログラム体験者を配置し、学生グループ内での啓発も効果的に行うメンバー構成としました。

このように、本プログラムはCAプログラムの導入部という位置づけのみならず、中国と韓国の両国において人的交流や「共通善」教育をベースとした実践的学習を行うという、より内容の深いメニューに進化・拡大しています。

単位化、事前・事後学習の充実

2014年度ワークショップは、夏期集中講座として単位化され、教育内容の充実が図られました。従来のワークショップに比べ、現地での研修先を絞り、講義やディスカッション、プレゼンテーションの時間を拡大しました。とりわけ、CA協定校である吉林大学（国際外交学院）と成均館大学（文学部）における教員の講義、質疑応答、ディスカッションがプログラムの中心とする構成になったことは、「留学体験」ワークショップとしても効果的なものでした。また、事前教育から現地での発表、事後研修へと、学生に与える課題の量と内容が拡充しました。学生は、これらの課題に取り組むことにより、①相手国のみならず「自己」を再認識するという作業と、②プレゼンテーション能力の向上を試みることができるようになりました。

対話の中から学ぶ

今回のワークショップでは、吉林大学と成均館大学でのプログラム担当教授たちから、極めて内容の濃い講義が提供され、学生に多くの課題を投げかけるかたちでワークショップが進行しました。靖国問題、謝罪、歴史認識といった課題を含むテーマを中韓の先生方が各々の視点や言葉で語りかけてくれたものを、学生は真摯に受け止め、自分なりに考えてみる契機となりました。来年度の中韓ワークショップは、さらにこうした議論をマルチリンガルでおこなう試みを組み込む予定です。

2012年度ワークショップ

2012年度（2013年3月17日（日）～3月23日（土））は中国（上海）および韓国（ソウル）にて研修を行った。

1
中国・上海では文化、史跡見学として豫園、中国茶文化博物館を訪れた。

2
企業訪問で訪ねた宝山製鉄では、企業大学講師から発展する中国産業の人材育成に関して講義を受けた。見学では宝山製鉄のとてつもない規模の大きさ、中国の第二次産業の力を目の当たりにした。

3

次に訪れた上海鶴山針織服装工場では大勢の縫製担当の女性が低賃金で勤務する“Made in China”の現場を見学した。

4
上海師範大学を訪問し、日本語学科の学生との交流会で、熱烈歓迎を受け、会話もはずんだ。ひとときの出会いが、離れがたい友情を結んだ。

ソウル（韓国）の史蹟・市内見学では、日本大使館裏の「少女像」を見学した。昌徳宮では伝統礼法講座に参加。礼節や「茶礼」の存在から日韓の文化の共通性も認識した。

成均館大学キャンパスでは、キャンパス・アジア専任の南先生から異文化を知る留学という経験について講義を受けた。岡大から帰国したばかりの成均館大学のキャンパス・アジア生とも交流できた。

企業訪問で訪れたサムソン広報センター、ソウル観光局では、特に韓国のハイテクを実感し、産業の側面から東アジアの共通善を追究することの意義について考える視察となった。

5

上海市内のコミュニティセンターで書道の講義を受け、家庭訪問（共同アパート）をした。

CA中韓留学ワークショップ

2013年度ワークショップ

2013年度(2014年3月1日(土)～3月8日(土))は、中国(青島)および韓国(釜山)で研修を行った。

1 長い船旅の時間を使って、青島の歴史や中国語、釜山の歴史や韓国語を事前学習した。

2 中国・青島市では、青島ビール工場やドイツ占領時代の風情を残す街並みを見学し、ドイツ占領時代の歴史を学んだ。

3 中国海洋大学（日本語科）を訪問し、「東アジアの相互理解」レクチャーの後、学生交流。同じ大学生としてすぐに親近感を感じられたことが新鮮だった。

4 現地企業訪問では、綺麗グループ青島工場で日中が共同して行う企業活動の現場を見学し、文化の違いを超えて協業することの意義や課題について考えた。

5 次に、イオングループでは領土問題による日中関係の悪化を背景に生じた激しい反日運動の生々しい体験談と企業活動の展開について話を聞いた。

6 釜山では、釜山タワー、李舜臣像、忠烈祠、釜山近代博物館、釜山博物館を見学し、韓国にとっての「独立」に思いを馳せると共に、近代日韓関係を解説するビデオや韓国の視点から描かれる歴史展示を通じて歴史認識の問題を考えた。

7 企業見学で訪れたルノー社との合弁 Samsung社やAPEC会場の見学では、先端技術に触れ、発展する韓国の国際化を目の当たりにした。

8

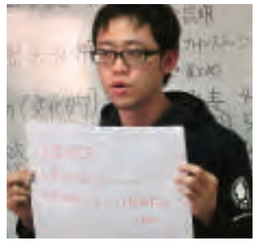
東義大学では、講義「東アジアの相互理解とは」を受講した後、学生交流と意見交換を行った。

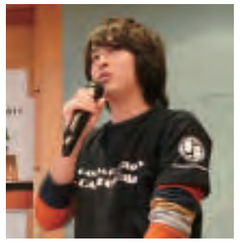
CA中韓留学ワークショップ

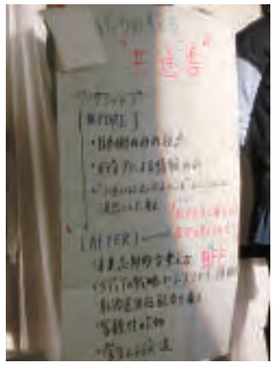
船上でも現地でも徹底討論

2012年度、2013年度ともにワークショップを通じて議論を行い、皆で共通善について考えた。

我々の考える「共通善」とは何か？
東アジアの相互理解と
共働に関わる共通なる善とは。







其々が「共通善」を考えること自体が、共通善の実現の始まりであると結論づけた。

CA中韓留学ワークショップ

中韓ワークショップ最終レポート

歴史と真摯に向き合う

私はこのワークショップを通じて、日本人が中韓の歴史とどう向き合うべきかについて考えた。

結論からいうと、私は、今回歴史認識の問題はそれ自体単独のものとして捉えるべきではないかと考える。なぜなら、本当の意味で歴史認識の問題に真摯であるならば、その問題の解決によって得られる経済や外交における利益とは本質からして異なるのではないかと感じたからである。

要するに、日中が経済的に相互依存の関係にあるから、あるいは政治的に友好関係にありたいから歴史問題に向き合う、という姿勢ではなく、一人一人の人間として、現在の日本人が、過去の戦争で起きた事実に、真摯に向き合うことが、日中韓の関係を考える上で、まず大切なことではないかと考えた。それを発展させてゆけばいつかそれはお互いの心に通じ、共通善になり、3国が本当の意味で友好関係を築けるかもしれないと思った。　（鹿森沙恵香　文学部人文学科3年生）

高齢化社会対策に見る共通善

韓国で特に印象に残ったのは、自生韓方病院の視察である。東洋医学は針、植物を使った薬において、西洋医学は解剖学、外科的手術を発展させてきたのであるが、それぞれの良い部分を融合させた形がまさにこの自生韓方病院の医療システムに表れていた。とりわけ医学的な面において日中韓がうまく競合できるもの、病院から共通善を具体化していくヒントが得られた。

またアサン病院において、名古屋大学病院とも連携して看護の上でも細かいケアや徹底したシステムを行っている点は非常に印象深く残った。日本独特の細かなケアというものが重要視されていることに、素直に嬉しく感じた。韓国の世界トップレベルの医療システムから学ぶことは本当にたくさんあり、また韓国も高齢社会であるため、日本の抱える問題を解決するうえでもよい見本となるだろう。日本では特に医療面だけでなく、産業全体が需要の高い高齢者向けのサービス強化に重点を置いているように感じる。政策も高齢者を医療面で支えることを全面に出しているようで、国は目先の利益にばかり気をとられている。そのような国の国民への影響も大きいとも考える。私たちはもっと大きな、長いスパンでの利益を考えるようなことをしていかなければならない。そのために、日中韓が手を取り合っていくことが期待されているのだと思う。　（藤田結実香　医学部保健学科2年生）

議論を通じて歴史を考える

国が違えば、育ってきた環境も違うし、受けてきた教育も異なる。そのため、歴史認識や領土の問題がでてくる。共通の指針のようなものがあればよいと思ったが、ワークショップの講義中に東アジアで共通の教科書を作ることは非常に難しいと先生がおっしゃってたのを思い出した。確かに私たちは自分のよい部分しか物事を見ようとしないし、歴史の都合のよい時間だけを取り出して解釈をするため、どんなに議論をしても全ての国が100％納得するものは決してできることはないだろう。では、どうすればよいのか。これらを解決する手立てはないのか。

それを考えていく上で、靖国神社参拝の問題がよい例になると思う。この問題はワークショップの王秋彬教授との授業でよく議論された。総理大臣が参拝する時期になるたびによく報道されていることではあるが、岡山で暮らす私にとってはいまいち身近に感じられず、あまり興味を持ったことがなかった。そのため、なぜ参拝するのか、どうして参拝すると問題になるのか知らなかった。また、この問題について同年代の人々とディスカッションするのは初めての経験だった。このように歴史問題に触れる機会が少なく、興味が希薄な現代人は本当に多いと思う。教育の面で、取り上げられることがまだ日本では少ないし、よく教科書での記述の仕方が問題になるように日本も自身に都合のよい解釈をしているかもしれない。

（鈴木伽奈　薬学部創薬科学学科1年生）

協力が互いの利益を生む

吉林大学の二人の教授が今後の日中関係についてレクチャーをしてくださる機会があり、そのレクチャーから感じた事は、日中の関係は相互扶助という形でしか両国の最大限の可能性を発揮することは出来ないということ。これまでのように、お互いの歴史認識の歪みから生まれる対立、経済力を武器にしての外交・交渉をしていては、日中間の狭い中での競争で一喜一憂し、注目すべき世界経済・世界史上との競争に勝っていけないということを感じた。そのことに注目した時に、レクチャーをしてくださった王先生が「今後確かに中国が日本の経済力を追い抜くときが来るだろうが、それで日本に対して傲慢になったところで中国経済の発展にはベストの選択肢ではない。なぜなら、日本と中国が本当に協力し合った時に、欧米を超えるほどの影響力を持つ事が出来る。それが最も理想的な日中関係であり、お互いの経済を最大限に成長させるためには必要なこと。」と言われたことが印象的であった。

（高井智光　経済学部経済学科4年生）

実践知をキーワードに地域で学ぶ

リージョナル・カンファレンス

「リージョナル・カンファレンス」、「まちなかキャンパス」は、大学のキャンパスを飛び出して、地域で実践的に学ぶプログラムです。

3国が抱える共通の社会的課題として、発展と経済格差、少子高齢化、地域活性化、環境保護などの問題があります。こうした問題を現地視察で学び、さらに地域住民や専門家を交えて3カ国の学生が討論します。

地域の文化と生活について体験学習し、町並み保存や地域福祉について討論

また、地域の歴史、文化に触れたり、3国に関連した遺跡を訪ねて議論するなど、様々なメニューが用意されています。

多言語セミナーでポスター発表

リージョナル・カンファレンスでは、現地視察に引き続いて、地域住民や専門家を交えたセミナーを現地で開催します。ここでは、多言語セミナー（「実験教室多言語セミナー」の項参照）形式で、日本語、英語、中国語、韓国語のチームを作り議論し、ポスター発表して相互に批評します。

瀬戸内海・豊島（てしま）の産業廃棄物不法投棄について現地を視察し討論

例えば、豊島（てしま）で産業廃棄物不法投棄、環境保全の議論をした際は、日本語チームは豊島住民の健康問題について、英語チームはグローバルな環境政策について、中国語チームは国家の責任について、韓国語のチームは住民運動の役割についてプレゼンしました。このように、同じテーマを議論しても言語により切り口に特徴が出るところがこのセミナーの魅力といえましょう。また、こうした身近な社会問題を、3国の学生が真剣に議論して共同で解決策を導き出そうとするプロセスは、まさに私たちが目指している共通善教育の根幹でもあります。

リージョナル・カンファレンス、まちなかキャンパス一覧

2012	10/27-28	地域復興：経済と人材育成	リージョナル・カンファレンス
	11/20	つなぐ、未来のアジアンクラット	まちなかキャンパス
	12/13	環境再生の視点から地域開発を学ぶ	まちなかキャンパス
2013	1 /18	幸せな発展とは　～高度経済成長が伝統的な暮らしに与えた影響～	まちなかキャンパス
	6 /14・22	―瀬戸内海・牛窓における日中韓三国間の経済・文化交流―	
	10/25・26	『東洋』と『西洋』の文化交流・融合	リージョナル・カンファレンス
2014	1 /25	環境学習で、人とまちと未来をつくる	リージョナル・カンファレンス
	5 /24-25	高度経済成長の光と影 生産から廃棄 公害問題の現場に学ぶ	まちなかキャンパス
	6 /27-28	野崎武左衛門と武吉郎について学び、近代日本の塩業および地域経済について考える。	リージョナル・カンファレンス
	11/ 4・8	岡山地域の歴史文化との触れ合い	リージョナル・カンファレンス

留学の成果報告と討論

キャンパス・アジア学生フォーラム

毎年2月および9月に、長期留学プログラム派遣および受入学生全てが集合し、各国における留学生活を通じて得た「東アジアの相互理解」に関する考察を留学先の習得言語によって発表し、熱く意見交換をします。フォーラム終了後、修了証書授与を行います。

学生たちは習得した言語能力を使って、相手国の社会や文化、人間について留学という実践学習を通じて得た理解を披露し、新たな問題意識を共有します。また、発表では「共通善」についてそれぞれの立場で考えたことを織り交ぜ、相互に「共通善」とは具体的に個々にとって何を意味するかを討論します。

「学生フォーラム」は、1）学生カンファレンス（個別発表）、2）学生シンポジウム（ディスカッション）の2部構成でおこなわれます。カンファレンスでは、「私の理解した中国／韓国／日本：“共通善”へのアプローチ」と題して各学生が習得言語（留学先国の言語または英語）で発表をおこないます。発表原稿は、発表言語および母国語の二カ国語からなる『CA学生フォーラム発表原稿集』としてまとめられています（巻末の資料一覧のページ参照）。

また後半では、グループワーク（2012年度）、あるいは前年度派遣OB学生をファシリテーターとするディスカッション（2013年度）をおこないます。2012年2月は1泊2日の合宿をおこない、じっくりとグループディスカッションをおこないました。

キャンパス・アジア学生フォーラムの様子

ディスカッション

3国学生メンバーによる岡山大学キャンパス・アジア・ソング―『同じ空の下』を披露

共通善をめぐる講義と討論
サマースクール

サマースクールでは、共通善、日中間の思想、伝統、歴史、政治、経済について、相互理解を深めます。各分野の研究者による講義、学生同士の討論に加えて、フィールドワークを通じた学習が組み込まれています。

サマースクールは、前半のグループが日本語によるプログラム、後半のグループが英語によるプログラムになっており、2つのプログラムの間に、合同のフィールドワークが組み込まれています。

講義では、協定校やその他の海外研究機関から研究者を招聘し、質と密度の高いプログラムを実施しています。また、できるだけ討論の時間を確保して、3国の学生が議論をする機会を多く確保しています。また、フィールドワークを通じて、地域に残った3国交流の痕跡を辿ったり、3国が現在抱える共通の問題（経済成長、格差社会、高齢化と福祉、環境保護）を現地で体験しながら討論します。

サマースクール後にまとめられた学生のレポート、感想文等は、ネットで公開されるとともに、日中韓サマースクールのプログラム改善に利用されます。

2015年度岡山大学キャンパスアジアサマースクール・プログラム

日　時	時　間	実　施　内　容	場　所	担　当
2015/ 8 / 9	20:00－21:00	日本語の部学生来日	岡山空港	事務局
2015/ 8 /10	8 :40－10:10	開講式	岡山大学	司会・白榮勛 Assoc. prof. Bai
	10:25－11:55	総論「共通善」とはなにか	〃	金泰昌 Mr. Kim Taechang
	12:45－14:15	「キャンパスアジア教育現場から見る日中韓三国の大学文化交流」	〃	金東建 Mr. Kim Dongkun
	14:30－16:00	討論「東アジアの共通性」を考える	〃	Facil. 白榮勛 Assoc. prof. Bai
2015/ 8 /11	8 :40－10:10	日本経済の現状と東アジア	〃	金美徳 Prof. Kim Midok
	10:25－11:55	日中・日韓の経済協力と課題	〃	
	12:45－14:15	討論	〃	
2015/ 8 /12	8 :40－10:10	東アジアにおける「共通利益」と国際社会	〃	沈海濤 Prof. Shen Haitao
	10:25－11:55		〃	
	12:45－14:15	日中韓三国の文化交流と多文化社会	〃	辺英浩 Prof. Byeon Yeongho
	14:30－16:00		〃	
2015/ 8 /13	8 :40－10:10	東アジア漢字文化圏における共通性の展開	〃	遊佐徹（土屋聡）
	10:25－11:55	雪から読み解く東アジアの環境	〃	遠山和大
	12:45－14:15	東アジアの近現代史	〃	土屋　洋
	14:30－16:00	東アジアにおける「儒教」と「論語」z	〃	孫　路易
		英語プログラム参加学生来日		
2015/ 8 /14		倉敷美観地区（町屋トラスト） Kurashiki Bikan historical quarter (Machiya Trust)	美観地区 Bikan historical quarter	事務局 中村理事 Mr. Nakamura
2015/ 8 /15		犬島（アートプロジェクト「精錬所」、ビーチレクリエーション、交流会） Inushima Island (Art project, beach recreation, party)	犬島	事務局
2015/ 8 /16		犬島→閑谷学校 閑谷学校（講堂学習、スポーツ大会） Shizutani School	閑谷学校	事務局
2015/ 8 /17		閑谷学校→曹源寺 曹源寺（寺見学、座禅、講和） Sogen-ji Temple (Zen meditation, Chief priest's talk)	曹源寺	事務局
		日本語の部学生帰国	岡山空港	事務局
2015/ 8 /18	8 :40－10:10	The Migration within the East Asian Region	Okayama University	Prof. Naomi Hosoda
	10:25－11:55	Intercultural Communications within the East Asian Region	〃	Prof. Naomi Hosoda
	12:45－14:15	The Legal History and Culture in East Asian Countries	〃	Prof. Kungang Li
2015/ 8 /19	8 :40－10:10	The Identity and the Language of Japan in East Asia and the World	〃	Prof. Naomi Hosoda
	10:25－11:55	Culture and Society in Japan	〃	Prof. Kimiko Osawa
	12:45－14:15	Politics of Japan: How It Deals with International Politics of East Asia	〃	Prof. Kimiko Osawa
	14:30－16:00	Common Good or Common Interest?	〃	Prof. Dong Kwang Kim
2015/ 8 /20	8 :40－10:10	Women and Gender in Asia	〃	Prof. Kimiko Osawa
	10:25－11:55	Asian Values: Pro and Contra	〃	Prof. Dong Kwang Kim
	12:45－14:15	The Constitutional Laws of East Asian Countries	〃	Prof. Kungang Li
2015/ 8 /21	8 :40－10:10	The Labor Laws of East Asian Countries	〃	Prof. Kungang Li
	10:25－11:55	The Imagery of the East Asian Community	〃	Prof. Dong Kwang Kim
2015/ 8 /22		英語の部学生帰国		事務局

キャンパス・アジア 構想・拡大・深化
第2部
包括的システムの構築 トライアングル連携教育

相互信頼関係が魅力的なプログラムの基礎

密接な3校実務者レベル協力

学生の活発な交流を支えるのは、日中韓3校の実務者レベル協力です。3校の実務担当者は、東アジア諸国の政治関係が難しい中、日常的に密接に協議しながら共通教育について議論し、制度を構築してきました。また、年に数回直接顔を合わせて議論するほか、年1回は合同会議を開催し、学生の交流をより密度の高いものにするため尽力しています。

これまでの主な会合

第1回3大学年度合同会議＠岡山大学
日　時：2012年1月17日（火）10:00～16:30
場　所：岡山大学創立50周年記念館大会議室
出席者：岡山大学12名、吉林大学2名、
　　成均館大学校2名
主要な内容：
①長期学生の受入・派遣、募集状況、事務対応体制、教育の質保証。
②The Startup Conference Okayama 2012（3月3日）打合せ。
③3国ジョイント・ディグリーに関する情報交換と導入に向けた議論。
④3校の教務事情と問題点討議。今後の共通教務システムの構築についての提案。
⑤共通善教育研究会の設立。

スタートアップ カンファレンス
日　時：2012年3月3日（土）10:00～17:00
場　所：ホテルグランヴィア岡山
出席者：3校関係者、岡山大学関係者、
　　地域関係者　約100名

スタートアップ カンファレンスは、本プログラムの本格的な開始にあたり、実施3大学の学長・副学長、関係教職員が一同に集まり開催されました。プログラム内容を学内外にアピールするとともに、本プログラムの円滑な実施のための協議・意見交換を行いました。3大学関係教職員をはじめ、地元経済界関係者、地方自治体関係者、大学の世界展開力強化事業採択大学関係者、総勢100名が参加しました。

第2回3大学年度合同会議＠成均館大学校
日　時：2013年3月5日（火）10:00～17:00
場　所：成均館大学校　文化大学1階会議室

出席者：岡山大学4名、吉林大学2名、
　　成均館大学校3名
主要な内容：
①2012年度各大学事業報告。
②2013年度プログラム内容協議。三大学でのCA共通科目の確立、修了証書の発行、共同サマースクールの開催。
③その他、プログラム実施上の課題。

第3回3大学年度合同会議＠吉林大学
日　時：2014年4月9日（水）9:00～16:00
場　所：吉林大学（中国吉林省長春市）友誼会館会議室
出席者：岡山大学4名、吉林大学4名、
　　成均館大学校3名
主要な内容：
①各大学の2013年度プログラム実施状況総括。

共通善教育、教科書作成、広報、3校の日常的な連絡会議、人材育成の成果の明確化・数値化、共通教育プログラムの円滑な実施。
②2014年度実施計画と協力体制。
③人材育成の成果明確化。単位互換・進路の実績・追跡調査。

第4回3大学年度合同会議＠成均館大学校
日　時：2015年2月2日（月）
場　所：韓国・成均館大学校文科大学退渓人文館
出席者：岡山大学4名、吉林大学3名、
　　成均館大学校3名
主要な内容：
①2014年度3大学の事業実施内容の情報交換。実験的取り組みの相互評価。
②2015年事業実施内容と協力体制の検討。
③事業終了後のプログラム継続についての検討。

第3部

斬新なメソードの開発 マルチリンガル教育と実験教室

キャンパス・アジアでは、日中韓共通教育モデル開発のため、「とんがった」実験教室を数多く開講しています。多くの実験は学生の感想やレポートから一定の効果が検証されています。さらにこれらの授業をブランシュアップしながら、日中韓共通教育モデルとして完成していきたいと考えています。

具体的な例を挙げると、まず共通善教育多言語セミナーがあります。この授業は、毎回設定される課題について、多言語でディスカッションするものです。一つの授業でいくつかの言語を併用することは、多国籍のチームで意見やプロジェクトをまとめていくための良い経験になります。

ナノ・バイオコースと自然系ワークショップは、カリキュラムがタイトな医歯薬系、自然系の学生が、国際交流に積極的に参加できるようにするための仕組みです。短期集中プログラムや海外ワークショップを企画し、研究レベルで日中韓の交流を図りながら、最先端の分野でも共通善の意識を持って判断、行動ができる研究者、技術者、医療関係者を育成します。

リージョナル・カンファレンスは、東アジア諸国が抱える共通の課題（経済格差、少子高齢化、環境保護）を、地域の人々と講習しながら学ぶプログラムで、PBL（Problem Based Learning）に対してCBL（Community Based Learning）と呼んでいます。

多言語セミナー

共通善教育 多言語セミナー

キャンパス・アジアでは、積極的に「とんがった」（斬新的で実験的、ときには異端的な）授業を学生と協力しながら開講しています。その代表例は、「共通善教育多言語セミナー」（小野真由美講師）です。

この科目は、キャンパス・アジアの留学生とともに、日中韓の言語を用いた多言語セミナーを授業の形式とし、現代における日中韓の社会文化や医療、科学技術に関するテーマについてディスカッションやプレゼンテーションを行う協働学習を目的としています。日中韓に共通の社会問題や、日中韓が共有する国際的な問題を取り上げ、相互理解を深めると同時にどのような解決が可能かについて柔軟に思考し議論する力を身につけることが達成目標です。

多言語で講義・討論

この講義の特徴は、ひとつの授業でたくさんの言語を併用することです。授業のほとんどの参加者は、少なくとも3ヶ国語が使えます。グループディスカッションでは、英語、日本語、中国語、韓国語のグループに分かれ、それぞれの言語で徹底討論します。

各グループ（例えば韓国語）には、韓国語を母国語とするファシリテーター役の学生、韓国に長期留学した日本人学生、韓国語が話せる中国人学生、韓国語を学び始めて留学を希望する日本人学生、などが参加します。言語の違いによって、議論の内容や結論に様々な違いが見られます。その部分を改めて全員で議論して、最後に教員のコメントで終わります。

柔軟な思考力は多言語ベースで

この授業は、とくにキャンパス・アジアのプログラムで長期・短期留学を行った学生に、共通善の概念を実社会で応用し実践することについて考える機会を持たせることを念頭においた授業です（キャンパス・アジアに関連するプログラムにこれまで参加したことのない学生ももちろん参加できます）。

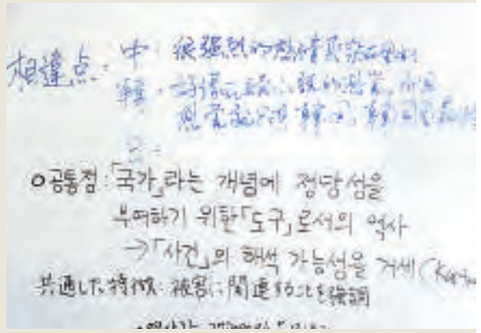
また国際舞台では、様々な考えとバックグランドを持つ世界の人々が、その場その場の状況に適応して様々な言語を駆使して議論をすることがよくあります。この授業では、そうした場面で活発に発言し、議論をリードできるような人材の育成を目指しています。

共通善教育多言語セミナー（2014年）

Multilingual Workshop on the Common Good in East Asia

■小野真由美講師

第１回　授業の説明
第２回　東アジアのグローバリゼーションは幸福をもたらすか（田口雅弘）
第３回　歴史問題―日中歴史教科書問題を中心に（土屋洋）
第４回　日中韓3国における漢字・漢語の使用（辻星児）
第５回　東アジアの共通善（荒木勝）
第６回　東アジアの共通善（荒木勝）
第７回　東アジアの法（張紅）
第８回　STAP細胞問題などにかかる自然科学教育の重要性（西原康師）
第９回　歯学から見た東アジアの共通善（長塚仁）
第10回　出生前診断の判断における日中韓比較（廣畑聡）
第11回　死生学からみた東アジアの共通善（宮石智）
第12回　グループワーク（小野）
第13回　グループワーク（小野）
第14回　グループワーク（小野）
第15回　グループプレゼンテーション・講評・総括（張紅・小野）



授業の例（2014年第2回）

教材・教科書

日本語文献（田口先生著書抜粋「東アジアのグローバリゼーションは幸福をもたらすか」）
中国語文献（許さん担当）、韓国語文献（李さん担当）
配布物：ハンドアウト

授業内容
（時間軸に沿って、教授内容・方法・学生の反応などを記録）

1. 田口先生レクチャー（45分）*スライド26枚
2. グループディスカッション（30分）
   1）東アジアのグローバリゼーションの実例を挙げる。それが、東アジアの社会、経済協力にいかに貢献しているのか、または障害になっているかを整理する。
   2）東アジアの社会、経済協力はどうあるべきか論じる。
   3）各チーム、5〜7分でプレゼン。グループディスカッションでは、言語（日・中、日・韓）を場合によって使い分けつつ、議論をすすめる。東アジアのグローバリゼーションの実例を挙げて論じる。
3. まとめ・田口先生のコメント（15分）

宿　題

次週の授業に関する補助資料を学生の担当者が作成し、週明けに配布。全員文献を読んで授業にくる。

セミナーを中心とした交流

自然科学系、生命科学系分野の院生・学生プログラム

キャンパス・アジア事業では、カリキュラムがタイトなためなかなか留学の機会がない自然科学系、生命科学系分野の院生・学生のために、別メニューを用意しています。岡山大学は全学体制でキャンパス・アジア事業を推進することを基本としているため、自然科学系、生命科学系分野の院生・学生にどのようにして日中韓の交流に参加してもらうかが大きな課題でした。

自然科学系学生には、研究発表を中心としたサマー・セミナー、オータム・セミナー、ウィンター・セミナー、ワークショップを、生命科学系（医歯薬系）にはナノ・バイオコースを企画し、理系学生がキャンパス・アジア事業に参加する機会を作っています。

自然系（理工系）サマーセミナー

最先端の研究分野でも、共通善への理解を持った研究者、学生を育てることが重要です。これらのセミナーは、単なる研究発表に終わることなく、学生同士の討論の場の設定、理系向け共通善教育の導入、持続的な交流の場の形成、キャンパス・アジア学生フォーラムへの参加などを通じて、全体のプログラムとの融合を図っています。

事例1 自然科学系ワークショップ（成均館大学校、韓国）

日　時：2013年2月14日～15日
企画名：（学会名）2013 BK21 Symposium on Chemical Materials Science
場　所：Diamante Hall, Vivaldi Park, Hongcheon-gun, Gangwon-do, Korea

企画の概要

成均館大学校化学物質科学研究科が毎年2月に開催している「BK21 Symposium」と融合するかたちで、自然科学系のワークショップを開催しました。岡山大学からは、大学院自然科学研究科と大学院環境生命科学研究科から10名の大学院生（博士前期課程5名、博士後期課程5名）が参加し、その内、1名が口頭発表、残りの9名がポスター発表をおこないました。その後、全員で懇談会をおこないながら、今後の学生の交流について協議しました。

ワークショップでの発表はすべて英語でおこないました。岡山大学、成均館大学校ともに、大学院生が有機化学、無機化学、材料科学、生化学、分析化学、物理化学、地球科学など幅広い分野の研究を発表し、活発な議論をおこないました。

事例2 自然科学系ワークショップ（岡山大学、日本）

日　時：2012年9月12日～16日
企画名：自然系サマーセミナー
場　所：岡山大学創立50周年記念館　他

企画の概要

岡山大学創立50周年記念館で9月13日・14日の両日で開催された国際シンポジウム「Bioactive Okayama 2012（BAO2012）」に参加し、口頭とポスターによって研究成果を発表しました。岡山大学の農学部、薬学部を中心とした教員と学生と成均館大学の教員と学生の研究交流を深めました。また、参加者学生全員に対して2名の教員が講演し、「共通善」に対する理解、および自然系の研究の取り組みに関する理解を深めました。

自然系サマーセミナー

吉林大学訪問の際も、近隣の大学との交流があり、今回も、岡山大学以外に、岡山理科大学、岡山県立大学などとの交流の機会を設け、今後の交流の発展につながるものとなりました。

自然系（理工系）サマーセミナー

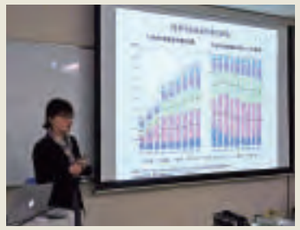
また、後援団体である岡山県食品新技術応用研究会、岡山県工業技術センター、NPO法人中四国アグリテックをはじめ、岡山県下の企業（20社）との交流、情報交換をおこないました。

事例3 医歯薬系ワークショップ

日　時：2012年12月11日
企画名：国際ウィンター・セミナー
「アジアにおけるロボット支援手術の現状」
場　所：岡山大学医歯薬総合研究科　他

企画の概要

2012年12月11日に、医歯薬系学生・院生を対象に国際ウィンター・セミナー「アジアにおけるロボット支援手術の現状」を開催しました。3国の医学系学生を引きつけるには、最先端のプログラムを見学させ、岡山大学への留学を促進させる必要があり、ロボット支援手術のセミナーを開催しながら、ナノ・バイオコースへの参加と、キャンパス・アジア事業への支援を促しました。また、このセミナー自体が、ナノ・バイオコースカリキュラム本格実施を控えてのコースを試験的に実施する機会となりました。このセミナーを通じて、3校に共通する課題と、その解決に向けた取組みの必要性を相互に認識することができました。



上：医歯薬系（薬学系）サマーセミナーでの報告
下：医歯薬系（薬学系）サマーセミナー修了式

結果的に、医学系においてもキャンパス・アジア事業を実施する素地ができ、長期・短期学生派遣・受入、薬学系の成均館大学とのジョイント・ディグリー協定締結につながりました。このロボット支援手術に関するセミナーは、医歯薬系のキャンパス・アジア事業のスタートに大きく貢献しました。

医歯薬系（医学系）サマーセミナーのポスター

ナノバイオコースの受入

Shutong LIU [劉 書通]

Basic Medical Sciences, Pathology, 2nd year of MS

■留学期間：2013年10月20日～27日

Although there are many regional disputes among these three governments, we do have much more common things. The CAMPUS Asia program gathering all the young students whom may come to be leaders in different areas. It's nice to see friends from all these three countries. I can tell everyone is nice to each other, from this I can see a brighter future of the cooperation among us.

This course gives me a chance to know the advantages of Okayama University, which is one of the best medical schools in Japan. Having seminars given by famous teachers is another wonderful thing. Beside these scientific activities, the experience of Japanese culture is also very impressive.

Jihan WANG [王 冀邯]

Basic Medical Sciences, Pathogenobiology, 3rd year of PhD

Here I want give our sincerely thanks to Okayama university, who gave us a wonderful memory about Okayama and Japan.

We spend few days in Okayama, but it's never enough for us, since we love the environment and culture in Okayama. Okayama hospital isn't as big as the hospital in Jilin university, but we can see lots of advanced medical facilities and experiment instruments, these gave me a deep impression.

Another unforgettable impression is Japanese Sado, the traditional tea culture, I really appreciate the connotation of this art, I clearly remember the four characters on the wall, which was Chinese characters means Peace, Respect, Clear and Calm translated in to English. In such a developed country, to be modest and hardworking is really a great trait that we should learn.

CAMPUS Asia Program Nanobiotechnology Course Report-SS

Short-stay students from School of Pharmacy, Sungkyunkwan University

Min-Sang LEE

CAMPUS Asia program give us a chance for communicating each other and exchanging their culture and background. Through this program, we can understand each other better. Based on the understanding of each other, we will grow as the cooperator and leader for holding together between Japanese, Chinese and Korean. I think common good is becoming the right people who not only learn their culture, history, and background of three nations but also unite their knowledge and apply to their professional field.

Sang-Joon KIM

Campus Asia program was a very instructive program to students of Korea and Japan. By this program, other country's students can study in other country. Doing so, Sharing their knowledge and culture will be possible.

I heard three universities participate this program. If more universities participate this program, it will be more useful program to students in Campus Asia. Furthermore, it will be center of students in East Asia.

Kyu-Mok HWANG

The lecture was great, because it made us think again about the common culture and common value among the three countries in East Asia, which is South Korea, Japan, and China. Although there is some difference in the levels or priority, we all have common value system, which is Confucianism.

We cannot deny that there are still hardships to overcome such as historical and political conflicts, but these problems should be regarded differently from academic areas. I think as three countries have many reasons to help each other, which are: spatial proximity, cultural similarity and their own professionalisms. I think it is good to aim for same goal.

Da-Young SHIN

CAMPUS Asia is a united program through Korea-Japan-China, for the common good of these three countries. Common good is something that can be beneficial to all of related nations. Through this program, we can think about the methods to benefit all of us. By interacting with people from different country, we can understand each other's problem and situation, which can lead to solution of various problems covering Eastern Asia countries. Since Korea, Japan and China share special similarity in culture like china character, this cultural understanding expected to be more easily formed. The Japan-Korea Joint Symposium was one kind of this trial. In this Symposium, I broadened my view of Japanese academy, culture and people.

This visit was lucky and beneficial for me. As a graduate student, I had little chance to meet students abroad. Thanks to CAMPUS Asia program, I met talented Japanese students and professors. In September, the colleagues in our laboratory guided the Japanese students, and this time, they introduced the Japanese culture to me. More lasting relationship between each other was formed, and we talked more deeply. In the point of research, through this visit, I gained many ideas and experiences to determine/introduce to go Okayama to study or not. In the next time, I wish there are some notification of the objective of this symposium, 'common good', before coming to Japan. To make something good for each country, I suggest discussing on topic related to pharmaceutical science or course. Through this joint symposium, I experienced Japanese weather, meals, history and people. The most important product of this symposium was the good impression on Japanese culture.

フォトグラフィワークショップ

実験教室　言葉以外の媒体を通じた表象と他者理解
「CAフォトグラフィワークショップ2014 —My Favorite：留学生活を撮り、記録すること—」

フォトグラフィワークショップのポスター

この実験教室は、アクティブラーニングによって、日本人学生と留学生が写真を撮る技術を学び、互いの作品批評を通じて、表象や他者理解、コミュニケーションについて理解を深める授業です。

日本人学生がキャンパス・アジアプログラムで取り組むテーマとして、メディアや報道には常に高い関心が寄せられています。非言語であるが共通言語となりうる写真を通じて、相互認識を深めることは、一つの実験授業として意味深いものです。また、フォトグラフィに写る主観と客観、そして公共性について、抽象的な議論を通じて考察を深めることにより、歴史認識などの問題に新たな視座を加える可能性も示唆することができました。

また、派遣留学前の学生にとっては、実用的な内容でした。具体的な撮影技術について指導を受けることで、技術習得の機会を得ることができました。これを機会に、留学中に様々なものに関心を持ち、沢山写真を撮り、留学の記録を残してくれることが期待されます。

プログラム

2015年2月23日（月）

開会挨拶・趣旨説明	10:00〜10:10
招聘講師の写真家鈴木光雄氏と小野真由美講師の対談：「My Favorite」	10:10〜11:40
参加学生自己紹介	11:40〜12:10
昼食	12:10〜13:00
撮影実習	13:00〜15:00
グループワーク	15:00〜15:30
講師による作品評	15:30〜16:30
田口雅弘教授による総評「日常のなかの歴史性」	16:45〜17:00
茶話会「非言語であるが共通言語となりうる写真は、自己と他者という境界を超える力をもつか？」	17:00〜18:00

作品の講評

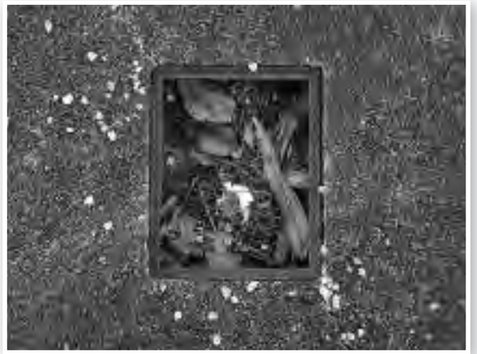
講師を囲んで記念撮影

清水 惇司（経済学部3年生）

参加した学生から

■2015年吉林大学派遣学生

「本日、写真家 鈴木光雄（Mitsuo Suzuki）氏による岡山大学・キャンパスアジア フォトグラフィワークショップに参加しました。共通言語としてのフォトグラフィを考える」をテーマに、午前中は4年半のマレーシア滞在経験や海外での作品展示など、豊富な海外経験のお話を拝聴しました。そして午後は、参加学生全員でキャンパスへ撮影に出掛けました。お題は“My Favorite”で、各々お気に入りの風景や被写体をカメラに収めました（最後の2枚の写真は私が撮影し、講評頂きました）。最後に、各々の作品を皆でシェアすることを通じて、非言語である写真一枚をとってもそれに込められたメッセージの違いを見出すことができたのはとても興味深かったです。フォトグラフィを、コミュニケーション手段の一つとして考える絶好の機会であったと思います。加えて、ホワイトバランスの使い方など、新しい撮影ワザも伝授して頂き、またご好意で先生のフォトブック“Sakura”にサインも頂き、収穫の多い1日間でした。鈴木先生、どうもありがとうございました。」



作品：李正珉
（成均館大学）

学生の作品には、様々な表現の違いが見られました。日頃学んでいるキャンパスへのプライベートな愛着を伝えようとする作品（日本人学生）、キャンパスで生活する学生の表情やキャンパスに存在する歴史の痕跡に注目した作品（中国人学生）、抽象的・象徴的な写真を通して自己表現しようとする作品（韓国人学生）など、着眼点が多様でした。それらの作品を各自プレゼンして相互に批評することによって、新しい切り口での相互理解が深まりました。

東アジア型グローバル教育のモデル化を目指して

実験教室のモデル化

キャンパス・アジアの現場で積み重ねられた経験は、様々な場で共有されることを目標に、モデル化を試みています。モデル化の基礎作りとして、キャンパス・アジアの経験を論文にまとめて公表する、学生も含めた討論の場を設ける、学会で報告しモデルのブラッシュアップを図る、などの作業を進めています。

学会セッションで白熱討論

平成27年3月14日(土)に岡山大学津島キャンパスで開催された国際教養学会(JAILA)第4回全国大会では、岡山大学キャンパス・アジアプログラムセッション「共通善の実現と東アジア型グローバル教養教育」(コーディネーター:岡山大学グローバル・パートナーズ　小野真由美先生)で、これまでの取り組みについて報告し、キャンパス・アジアプログラムに参加した学生も交えて、白熱した議論を行いました。

このセッションでは、まず岡山大学キャンパス・アジア事業「東アジアの共通善を追求する深い教養に裏打ちされた中核的人材育成プログラム」による教育および人材育成の取り組みについて報告しました。続いて、学生による成果報告をもとに、高等教育における東アジア型グローバル教養教育のモデル構築に向けて、その可能性と課題について検討しました。

こうした、「共通善」の実現を理念とする日中韓の共同教育開発によって、学生の高度なモビリティと多言語を用いた協働学習が可能となります。

大会HP
http://www.okayama-u.ac.jp/tp/access/access_4.html

国際教養学会(JAILA)第4回全国大会
岡山大学 キャンパス・アジアプログラムセッション
「共通善の実現と東アジア型グローバル教養教育」
日時:平成27年3月14日(土) 14:15〜15:05　場所:岡山大学津島キャンパス〈A41教室〉

コーディネーター
小野真由美(岡山大学グローバル・パートナーズ講師)
キャンパス・アジアプログラム　プログラムコーディネーター
2014年度中韓留学体験ワークショップ担当教員
2014年度共通善教育多言語セミナー担当教員
グローバル・パートナーズ　スタディ・アブロード部門担当(EPOK)

発表者
大西彩奈(岡山大学文学部行動科学科2年生)
キャンパス・アジアプログラム2014年度成均館大学校長期派遣生(期間1年)
金東夙(成均館大学校儒学大学東洋哲学科博士課程)
キャンパス・アジアプログラム2014年度岡山大学長期派遣生(期間1年)
徳永百合(岡山大学教育学部養護教諭養成課程2年)
キャンパス・アジアプログラム2013年度成均館大学校長期派遣生(期間1年)
キャンパス・アジアプログラム2012年度成均館大学校夏季短期留学派遣学生
キャンパス・アジアプログラム2012年度中韓ワークショップ派遣学生
時佳希(吉林大学文学院修士2年)
キャンパス・アジアプログラム2014年度岡山大学長期派遣生(期間半年)
木村崇志(岡山大学文学部)
キャンパス・アジアプログラム2014年度吉林大学長期派遣生(期間半年)
キャンパス・アジアプログラム2012年度中韓ワークショップ派遣学生
キャンパス・アジア学生サークル代表

セッションの構成

①趣旨説明(5分)(小野真由美)

②学生発表(3組、各10分)

1.「留学で培う教養力」(大西彩奈)
要旨:本発表では、キャンパス・アジアプログラム韓国長期留学の成果と意義について報告する。留学中、様々な分野の学習に取り組み、多くの教養を身につけることができた。「共通善」としての固有文化を学び、異文化を持つ人と、お互いの文化を理解しあうことが、相手との距離を縮めるのだと知り、語学力の向上により幅広い人間関係の構築が可能となった。専攻が決まる前に留学に行ったことで、多くを学び、しっかりとした教養という土台をもとに、今後の専門学習が豊かなものになると考えている。

2.「共通善からみる平和とは」(金東夙、徳永百合)
要旨:本発表は、キャンパス・アジアプログラム受入れ留学生にとって必須科目であり、長期派遣留学を終えた後の事後学習として「共通善多言語セミナー」における協働学習の成果について報告する。東アジアの共通善である漢字の中でも、特に明治時代に作られた翻訳語である「平和」という言葉に着目し、漢字文化圏という東アジアのコミュニティの中で私たちが共生するために必要な教養・知識について考える。日本と韓国において「平和」の概念やイメージ、憲法、日常的な使い方などの面において、どのような共通点・相違点があるのか比較し、その違いにはどのような国家的情勢や社会・文化的な違いが影響しているのかを考察する。

3.「グローバル化と歴史の共通認識」
(木村崇志、時佳希)
要旨:本発表では、日中の歴史認識について考察する。発表者はともに専門として歴史学を学んでいるため、多言語セミナーで講義された日中の歴史教科書の問題に興味を持った。本発表では、社会的、文化的そして経済的な結び付きを強める東アジアの中で、依然として解決に至らない歴史認識をめぐる対立を、教育面と歴史論争の面から考察し、いかにして共通の認識を持ち、東アジアという共同体の中で生きるかということについての自分たちなりの結論を述べたい。

③質疑応答および議論(15分)

第4部

キャンパス・アジア コミュニティ

自ら育てる交流の輪

キャンパス・アジアは、大学キャンパス内だけではなく、日常的な交流を通じて日中韓の意見交換、人的交流を行っています。具体的には、CAMPUS Asia同窓会、CAクラブ、シェアハウスなどの活動です。これらの活動は、すべて学生たちのイニシアティブで運営されています。

CAMPUS Asia同窓会は、キャンパス・アジアプログラムで仲間となった学生・院生たちが、卒業後も連絡を取り合いながら東アジア地域中核人材として活躍し、情報を交換する場です。新しいキャンパス・アジアプログラム生のサポートも行います。

CAクラブは、キャンパス・アジア学生の支援、キャンパス・アジアプログラムの広報、大学・地域イベントへの参加などを行います。

シェアハウスは、日中韓交流の拠点で、キャンパス・アジアプログラムに関心のある学生たちが集います。共同生活する中で、本音で議論できる人間関係が育っていきます。

キャンパス・アジアパートナーズ

自主的な活動が絆を強める

CAMPUS Asia同窓会

卒業後も共に学ぶ

「CA留学生同窓会」（正式名称未定）は、成均館大学に長期留学した学生たちが発起人となり、2014年3月に発足しました。キャンパス・アジアプログラムを通じて、岡山大学から吉林大学および成均館大学に長期留学した学生、および岡山大学に留学した吉林大学生、成均館大学生が会員です。留学を終えた後も、お互いに交流を深めながら、ともに成長していくための発展型ネットワークを構築中です。

CAクラブ

「CAクラブ」は、キャンパス・アジアプログラムで長期留学した学生たちによって、2013年6月に発足しました。キャンパス・アジアプログラムに参加する学生と、キャンパス・アジアに関心のある学生たちのサークルで、学生同士の支援活動、情報交換、留学生支援、イベント企画などをおこなっています。学際や地域イベントへの参加で、3国学生の絆をますます強めています。

CAクラブ課外活動記録

■2013年

4 / 5　CA Caféオープン
　　～ホットックパーティー～
5 / 3　球技大会
6 / 8　料理パーティー
　　～ぎょうざ・手巻き・ナムル・お味噌汁～
11/1～3　学祭出店　ホットック店
12/ 8　秋体験ツアー in 深山公園

■2014年

1 /31　春節パーティー in share house
2 /11　スノボ in 芸北
4 / 7　留学生歓迎パーティー・お花見
10/16　大学ホームカミングディ出店

シェアハウス

シェアハウスは、キャンパス・アジアに参加する3国の学生たちにとって、相互の文化を知る学びの場であり、夜を徹して議論をする相互理解の場であり、共同の作業を経験する体験学習の場です。また、シェアハウスは、キャンパス・アジアに関心を持つ学生たちが集う拠点であり、地域コミュニティと交流する接点でもあります。生活のルール作り、地域のイベントへの参加…、いつも順調にいくわけではありませんが、摩擦や障害を自ら解決し乗り越えることが、相互理解を深め、お互いの絆を強めていきます（次ページ「シェアハウス」参照）。

課外での3国交流
シェアハウスは相互理解の拠点

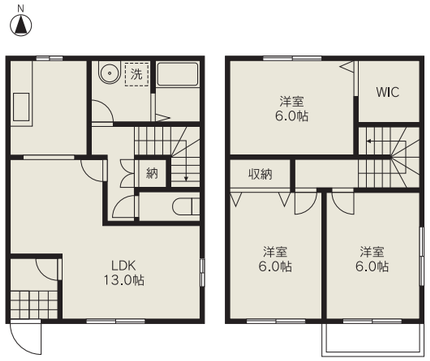
信頼関係構築は
地道な協力の積み重ね

シェアハウスの目的は、日中韓の学生たちが生活を共にし、お互いの生活習慣や文化、価値観を相互に理解することを基礎に、本音で議論しあえる人間関係を築くことです。

踏み込んだ議論の前提となるのは、お互いの信頼関係です。お互いの信頼関係は、生活を共にすることにより、少しずつ芽生えてきます。日常の小さなルール（食事、清掃、ゴミ出し、節電、町内会）を自分たちで決めていくことは、簡単なようで意外に根気がいります。自分の国では当たり前のことも、いちいち確認が必要だということは、最初は大きな戸惑いですが、こうした小さな違いをひとつひとつ乗り越えることが、相互理解の土壌を作っていきます。

キャンパス・アジアのシェアハウス

キャンパス・アジアのシェアハウスは、男子寮と女子寮があります。それぞれ、1階が共通スペースで、2階に個室があります。キッチン、バス、トイレは共有です。日本人がシェアハウスのレジデント・アシスタント（RA）になり、できるだけみながリビングに集まり、一緒に食事を作ったり、一緒に勉強したりする環境を作ります。また、研究のサポートも行います。共同生活のルールは、事務局からは指示しません。メンバーが入れ替わるたびに、自分たちで話し合って決めます。



シェアハウスの魅力

シェアハウス魅力は、膝を突き合わせて３国の学生が語り合えることです。はじめはレポート作成のサポートや講義の復習などから始まりますが、いつのまにかなんでも話し合える仲間になっています。また、シェアハウスではときどき誕生日会、季節の行事（節分など）、パーティ（鍋パーティ、たこ焼きパーティなど）が開かれ、常に新しい仲間がリビングに集まってきます。ややもすると留学生同士で固まってしまう留学生寮とは違い、常に多様な学生が集まることは、お互いに大きな刺激になります。

若者の心をつかむ　共通「膳」
相互理解は食文化の交流から

シェアハウスのもうひとつの魅力は、共に食事を作ることです。各国の料理を共同して作り食べることが、シェアハウスでの大きな楽しみのひとつです。わたしたちのプログラムの目標である共通善にかけて、これを共通「膳」と呼んでいます。シェアハウスを通じ、食事の時間を共有することが、相互理解には大きな効果があることがわかりました。考えてみれば、家族も同様ですね。

Okayama Univ. CAMPUS Asia

シェアハウス

Welcome to Our Sweet Borderless House!

日中韓3国の学生はそれぞれ
2階のプライベート空間を持ちながら、
1階の共同スペースで楽しく暮らしています。
ハウスミーティング、家庭菜園、テーマパーティー
などを通じて、3国の学生達が多言語交流の出来る
環境と価値観の共有を実現しました。
不安いっぱいで一歩を踏み入れ…
胸いっぱいの思い出と共に別れを惜しみました。

HOUSE REPORT

「いつのまにかシェアハウスに住み始めてから半年が経ち、今月が最後の月になりました。シェアハウスに住み始めてから今まで大きな問題もなく生活することができました。これは、一緒に住んでいるハウスメイトであるジョンミンさんと張さんのおかげだと思います。私は、本当にハウスメイトに恵まれました。」

「キャンパスアジアのシェアハウスでの生活は、まるで家族と一緒に生活しているような感覚でした。半年間のシェアハウスでの生活で私はハウスメイトから多くのことを学びした。その中でも一番大切だと思ったことは、「初めて会う人と接するときはその人が属する集団のイメージから偏見を持ってその人を判断するのではなく、個人として接してからその人を判断することが大事だ。」ということです。私は初めて会う人と接するとき、その人が所属する集団、たとえば国や民族などのイメージからその人がどのような人であるかを決めつけていました。しかしながら、私のハウスメイトたちは、人と関わる時、話す前から相手がどのような人なのかを決めつけてかからずに、しっかりと相手と接し、自分自身で考えてから人と接していました。彼らのような、人との接し方が人と関わるための正しい方法であり、互いに理解するために必要なことだと学びました。頭の中では当たり前だと分かっているけれど、行動に起こすことが難しかったことを私のハウスメイトは、シェアハウスでの生活を通して教えてくれました。」

「このキャンパスアジアのシェアハウスでの経験は、私にとって貴重な経験であり、精神的に成長することのできる多くの機会に恵まれました。シェアハウスで生活して良かったと思うとともに、シェアハウスに関することで助けていただいた多くの方々に感謝しています。」

（レジデント・アシスタント男子棟と女子棟のハウスレポートから抜粋）

性格が
明るくなった
ボソンさん

シェアハウスの
特製梅酒♥

2014年度
私たちの家庭菜園が
始まったぁ～

キャンパス・アジア 構想・拡大・深化
第4部
キャンパス・アジアコミュニティ

《Perspectives》

プログラムの継続と深化

岡山大学・吉林大学・成均館大学キャンパス・アジアプログラムは、様々な実験を繰り返すことによって、ようやく一つのモデルにたどり着きつつあります。

このプログラムは、次の方向に継続・拡大され、内容も充実されます。

共通善を柱とした人材育成

共通善は、日中韓学生の心の中にあり、それをいかに引き出すかが教育の大きな役割です。これまでの経験から、まず日中韓の基礎的な伝統、思想、歴史等と言語を学んだ後、リージョナル・カンファレンスなどで共通の課題について討論し、さらに相互に対立する課題についても議論を行います。これらを学部の4年間、大学院の2年もしくは5年間を通じて少しずつ積み上げていくプログラムを、今後もよりブラッシュアップしていきます。

共通善共通教科書の改定

共通善共通教科書は、それを授業やサマースクールで実際に使うことで改善されてきました。今後はそれをさらに使い込むことによって、より深みのある内容に改定していきます。また、シリーズ本として、出版社から刊行していきます。

ダブル・ディグリー、ジョイント・ディグリー

これまでの3校の交流をより深めるため、プログラムを発展させ、ダブル・ディグリー、ジョイント・ディグリーとして学位を与えられるように準備を進めています。すでに、吉林大学とは博士前期課程、博士後期課程でダブル・ディグリーの実績がありますが、成均館大学ともダブル・ディグリー協定を結び、学術交流を深めています。今後はこれをジョイント・ディグリーに発展させていく予定です。

国際共同大学院設立

ダブル・ディグリー、ジョイント・ディグリープログラムは、さらに国際共同大学院設立に発展させます。完成すれば、現在のプログラムが安定して運営できる体制が確立されます。

東アジアからアジア全般へ

わたしたちのプログラムを、3校にとどめず、このプログラムをモデルとしてより多くの大学と連携していくとともに、3校で協力して東南アジアの大学グループとの提携を図ります。また、3国が東南アジアとの連携でどのような協力体制が取れるか模索していきます。

資料

共通善教育：キャンパスアジア共通教科書シリーズ

キャンパスアジア共通教科書シリーズ　プロローグ
荒木勝『東アジアの共通善を実現する深い教養に裏打ちされた中核的人材育成プログラム（Program for Core Human Resources Development: For the Achievement of the Common Good and a Re-evaluation of Classical Culture in East Asia ）』岡山大学キャンパスアジア、2012年12月。
要約：キャンパス・アジア「スタートアップ・カンファレンス」の荒木理事講演をベースにした、本プログラムの基本理念を収めた教科書。日英中韓4ヶ国語。

キャンパスアジア共通教科書シリーズ Ⅰ
沈 美 華『The Relevance of Aristotle's ‘Justice’ for Confucian Politics』岡山大学キャンパスアジア、2013年7月。
要約：サマースクールで使われた西洋思想と東洋思想の対話についての教科書。

キャンパスアジア共通教科書シリーズ Ⅱ
金美徳『東アジアの経済協力と共通利益　東アジアの経済連携―アジアと日本の知恵を生かす―』岡山大学キャンパスアジア、2013年7月。
要約：サマースクールで使われている東アジア経済協力に関する教科書。

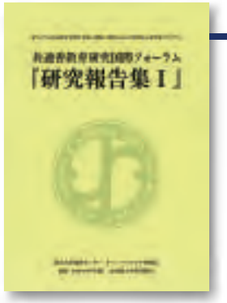
キャンパスアジア共通教科書シリーズ Ⅲ
荒木勝『東アジアの共通善を目指して（Seeking the Common Good in East Asia）』岡山大学キャンパスアジア、2014年3月。
要約：サマースクールで使われている東アジアの共通善に関する教科書。

共通善教育：サマースクール共通善講義資料 Ⅰ
荒木勝、孫路易、遊佐徹『伝統と思想』岡山大学キャンパスアジア、2013年7月。
要約：サマースクールで使われている東アジアの伝統と思想に関する教科書。

共通善教育：サマースクール共通善講義資料 Ⅱ
May SIM（沈美華）『The Relevance of Aristotle's ‘Justice’ for Confucian Politics』岡山大学キャンパスアジア、2013年7月。
要約：アリストテレスの正義論と孔子の思想を比較検討。共通善についても考察。

共通善教育：サマースクール共通善講義資料Ⅲ
金美徳『東アジアの経済協力と共通利益　東アジアの経済連携―アジアと日本の知恵を生かす―』岡山大学キャンパスアジア、2013年7月。
要約：「アジア・ユーラシアダイナミズムといかに向き合うか」に関する論議

共通善教育：サマースクール共通善講義資料Ⅳ
沈海濤『東アジアにおける「共通利益」と国際社会』岡山大学キャンパスアジア、2013年7月。
要約：「東アジア国際関係が激動する中、国際社会に共通利益とアイデンティティに関する再検討の必要性」や「リージョナリズム視野下の東アジア地域協力の限界」について、「政経分離」または「政経不可分」という視点で「東アジア国際社会の統合に必要なもの」を考える。



共通善教育：キャンパスアジア共通善教育研究シリーズ

2012年3月共通善教育研究国際フォーラム
三大学共通善教育研究会『研究報告集Ⅰ』岡山大学キャンパスアジア、2012年4月。
要約：この『研究報告集I』は、2012年3月26、27日に開催された「共通善教育研究フォーラム」に提出された報告概要をまとめたものである。原稿は日本語、中国語、韓国語に分かれているが、中国語、韓国語は日本語に翻訳されている。また執筆者の所属などについては、当該フォーラム開催時の記録に基づいて作成されている。

2012年11月共通善教育研究国際フォーラム
三大学共通善教育研究会『研究報告集Ⅱ』岡山大学キャンパスアジア、2012年12月。
要約：この「共通善教育研究フォーラムII」は、キャンパス・アジア共通教科書の編著を目指すものである。報告者及び内容は日本国内に限定するが、諸多の課題のうち、東アジアにおける伝統的思想、漢字文化、経済、現代正義論などをテーマにし、とりわけ東アジア日中韓産国の経済及び相互関係に中点をおいて行う。

2013年3月共通善教育研究国際シンポジウム
三大学共通善教育研究会『共通善教育研究国際シンポジウム報告集』岡山大学キャンパスアジア、2013年3月。
要約：このシンポジウムは、これまでの研究成果に基づいて、（1）現代「正義論」の共通性―「東洋」と「西洋」との比較、（2）東アジア伝統思想共通性、（3）東アジアの経済協力と共通利益、（4）東アジアの近現代史と国際関係、の四部に分けて行われる。今回のシンポジウムは上記の各分野の研究課題を再確認するとともに、研究内容の整合性を図りつつ東南アジアの共通性を発見し、キャンパス・アジア共通善教育共通テキストの編述を目指す。

岡山大学キャンパスアジア事務局『2013年度CAMPUS Asia学生文集』岡山大学キャンパスアジア、2013年3月。
要約：2013年度長期派遣・受入、短期派遣・受入、リージョナルカンファレンス、まちなかキャンパス、サマースクール、ナノバイオ長期・短期受入などキャンパスアジア共通善教育プログラムを通して、学生自身が書き留めた成長記録を凝縮した一冊。

岡山大学キャンパスアジア事務局『2012年度CAMPUS Asia学生文集』岡山大学キャンパスアジア、2012年3月。
要約：2012年度長期派遣・受入、短期派遣・受入、リージョナルカンファレンス、まちなかキャンパス、サマースクールなどキャンパスアジア共通善教育プログラムを通して、学生自身が書き留めた成長記録を凝縮した一冊。

岡山大学キャンパスアジア事務局『2013-2014 Okayama University CAMPUS Asia Student Conference』岡山大学キャンパスアジア、2014年3月。
要約：2013年度キャンパスアジアプログラム長期派遣・受入学生が「私の理解した中国／韓国／日本：共通善へアプローチ」をテーマに、母国語と派遣先国の言語で発表した内容をまとめた一冊。

岡山大学キャンパスアジア事務局『2012年度学生フォーラム』岡山大学キャンパスアジア、2013年3月。
要約：2012年度キャンパスアジアプログラム長期派遣・受入学生が「私の理解した中国／韓国／日本：共通善へアプローチ」をテーマに、母国語と派遣先国の言語で発表した内容をまとめた一冊です。

岡山大学キャンパスアジア事務局『2014年中韓ワークショップ』岡山大学キャンパスアジア、2014年3月。
要約：2013年度キャンパスアジアプログラム短期派遣プログラムの一環として、22名の学生を中国上海市・韓国ソウル市へ派遣。現地大学生との交流、企業視察、社会見学などを通して、中韓歴史と現代社会を理解し、日中間三国における共通善について考えました。今回初めて学生TAを参加させて、学生の主体性を重視したプログラム編成を試行。

岡山大学キャンパスアジア事務局『2013年中韓ワークショップ』岡山大学キャンパスアジア、2013年3月。
要約：2012年度キャンパスアジアプログラム短期派遣プログラムの一環として、19名の学生を中国上海市・韓国ソウル市へ派遣。現地大学生との交流、企業視察、社会見学などを通して、中韓歴史と現代社会を理解し、日中間三国における共通善について討論。

『*CAMPUS Asia Winter Seminar on Life and Material Sciences in Okayama 2013*』Okayama University CAMPUS Asia Promotion Office, Jan.23, 2014.
Introduction: Program for core human resources development: for the achievement of common good（Bonum Commune）and re-evaluation of classical culture in East Asia / Life and material sciences.

『*The 1st Japan-Korea Joint Symposium on Pharmaceutical Researches in Okayama 2013*』Okayama University CAMPUS Asia Promotion Office, Dec.12, 2013.

『*The 1st Japan-Korea Joint Symposium and Autumn Seminar on Advanced Chemistry*』Okayama University CAMPUS Asia Promotion Office, Nov.30, 2013.
Introduction: Program for core human resources development: for the achievement of common good（Bonum Commune）and re-evaluation of classical culture in East Asia / Advanced Chemistry.

『*Nanobiotechnology Course Autumn Seminar in Okayama 2013 –Front Line of Robot-Assisted / Laparoscopic Surgery–*』Okayama University CAMPUS Asia Promotion Office, Nov.13, 2013.
Introduction: Frontline of Robot-assisted/Laparoscopic surgery.

『Summer Seminar on Natural Science 2013』Okayama University CAMPUS Asia Promotion Office, Sep.20, 2013.
Introduction: Proceeding for the summer seminar in Okayama University.

その他の刊行物

成均館大学東アジア古典学国際学術会議資料集
『東アジア漢文学、共通性および固有性―東アジア古典学の可能性と難関』成均館大学キャンパスアジア、2012年11月。
概要：「漢文学」を通じて国家や地域の単位を越え、「東アジア」の次元で東アジアの言語生活の共通性と差異を新しく認識する。

CAMPUS Asiaパイロット事業　プログラム開発：科目開発提案書
黄鎬徳、文科大学共通専攻科目『東アジア現代古典―講義開設、趣旨、目的、主要講義内容』成均館大学キャンパスアジア、2012年11月。
概要：東アジア的地平から文化的な共同性を探求・模索する。19世紀末以降形成された個別国家の近代国民文学を東アジアの現代古典という地平から再読し、個別国民文学・民族文学の概念を脱構築的に再考しながら批判的な歴史認識なかで共生と相互協力を目指せる価値を涵養する。

『CAMPUS Asia留学体験文集』成均館大学キャンパスアジア、2014年4月。
要約：2012-2014学生文集。

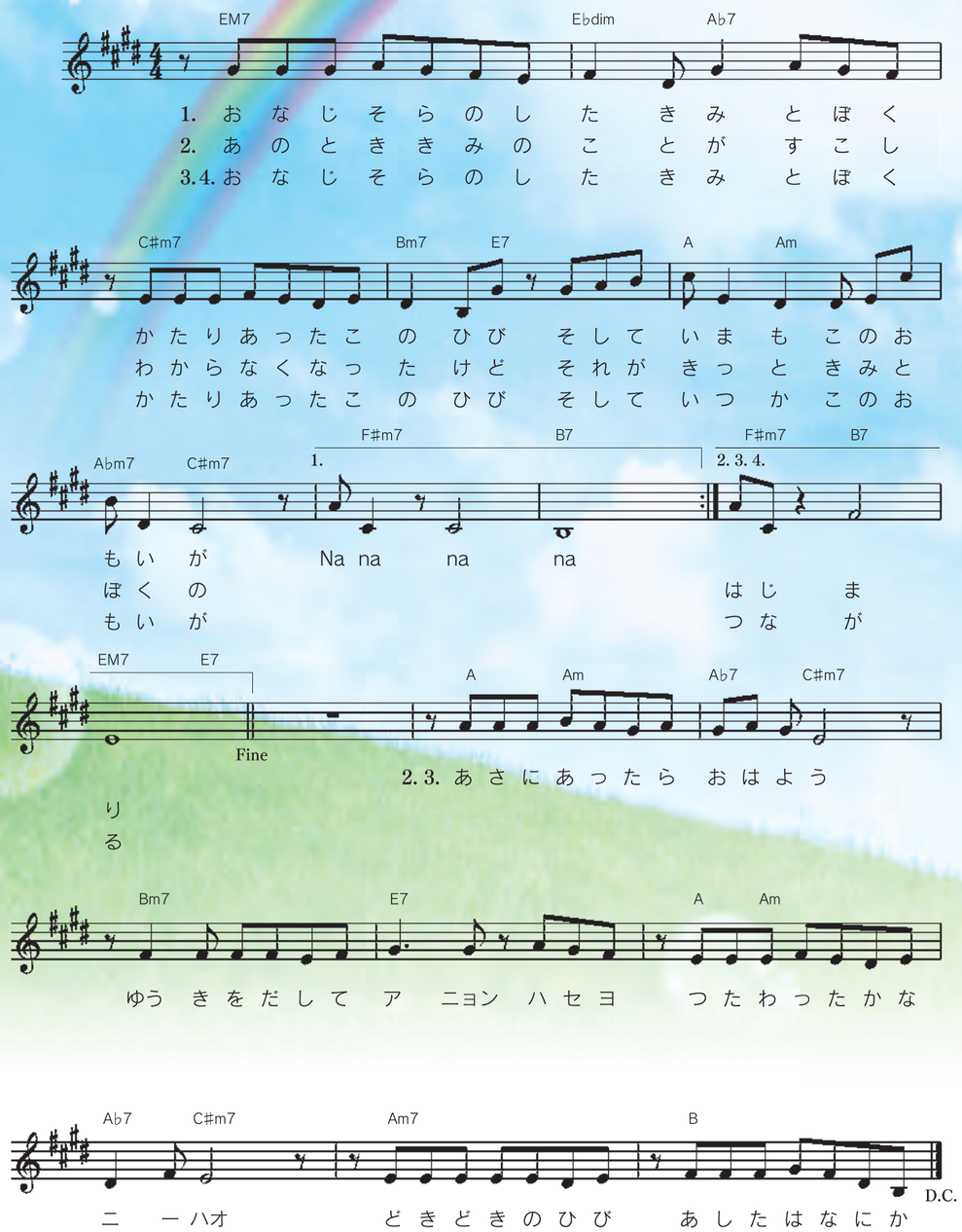
『吉林大学2013年度キャンパスアジアプログラム事業報告書』吉林大学キャンパスアジア、2014年4月。

『吉林大学2012年度キャンパスアジアプログラム事業報告書』吉林大学キャンパスアジア、2013年1月。

『平成24年度実績報告書』岡山大学キャンパスアジア事務局、2013年3月。

CAMPUS Asia's Song
[みんないっしょ]

作曲：李 正 珉 Jungmin Lee
作詞：藤彌葵美 Ami Fujiya



同じ空の下君と僕
語り合ったこの日々
そして今もこの思いが na na na na
あの時君のことが少し
分からなくなってでも
きっとそれが君と僕の
始まり

朝にあったら「おはよう」
勇気を出して「アンニョンハセヨ」
つたわったかな「ニーハオ」
ドキドキの日々明日は何か

同じ空の下君と僕
語り合ったこの日々
そしていつかこの思いが
つながる

朝にあったら「おはよう」
勇気を出して「アンニョンハセヨ」
つたわったかな「ニーハオ」
ドキドキの日々明日は何か

同じ空の下君と僕
語り合ったこの日々
そしていつかこの思いが
つながる

キャンパス・アジア　構想・拡大・深化
―これまでの成果と今後の展開―

2015年3月31日発行

岡山大学 キャンパス・アジア事務局
〒700-8530 岡山県岡山市北区津島中2丁目1-1　TEL 086-251-8532
E-mail　campus.asia@cc.okayama-u.ac.jp　http://campus-asia.ccsv.okayama-u.ac.jp/

CAMPUS Asia
OKAYAMA UNIVERSITY

平成23年度大学の世界展開力強化事業
【タイプA：キャンパス・アジア中核拠点形成支援】I：日中韓のトライアングル交流事業
「東アジアの共通善を実現する深い教養に裏打ちされた中核的人材育成プログラム」